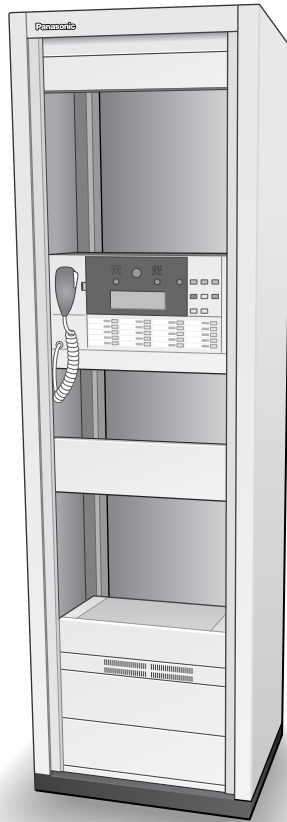


取扱説明書

ラック形非常用放送設備 品番 WL-8000 WL-8500



※イラストはWL-8500です。

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(5～6ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

商品概要

本機は、業務用途を目的とした中規模から大規模建築物に対応する非常用放送設備（以下、本体）です。非常放送*¹以外に、緊急放送*²、業務放送*³ができます。また、マルチリモコンマイクを接続すると、離れた場所からも放送できます。

●非常放送

- ・音声警報により、発報放送・火災放送・非火災放送を行います。
- ・音声警報のメッセージは、「日本語」「日本語+英語」で、標準67パターンを内蔵しています。
- ・非常放送時には、音声指示と液晶画面上での操作指示ガイダンスにより、機器操作を支援します。

非常用放送設備 音声警報 基本文

※下線部には、階情報音声が入る。階情報がない放送の場合は、飛ばして放送します。

■発報放送

言語	基本文
日本語	ただ今_____火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので次の放送にご注意ください。
英語	Attention please. A fire alarm has activated _____. We are checking now. Please wait for the next announcement.

■火災放送

言語	基本文
日本語	火事です。火事です。_____火災が発生しました。落ち着いて避難してください。
英語	Attention please. Attention please. There is a fire _____. Please proceed to an emergency exit and evacuate the building in a calm manner.

■非火災放送

言語	基本文
日本語	先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果異常がありませんでした。ご安心ください。
英語	Attention please. The alarm reported earlier was not caused by a fire. We are very sorry for the disturbance.

●緊急放送への対応

- ・地震発生時などの緊急事態に、スイッチ操作1つで緊急メッセージを放送できます。
- ・3つの緊急放送スイッチにより、段階的な緊急放送（警戒、避難、解除など）ができます。
- ・外部からの起動信号で自動的に緊急放送できます。
- ・サイレン音を内蔵しています。避難訓練などに使用できます。
- ・緊急放送用の非常電源ユニットを接続すると、停電時にも緊急放送ができます。

●業務放送

- ・オリジナルのメロディーを登録して、コールサイン音として放送できます。
- ・オリジナルのメッセージを登録して、メッセージスイッチや外部からの起動信号で放送できます。

*¹非常放送：消防法で定められた非常用放送設備による火災発生時の放送です。

*²緊急放送：地震・ガス漏れ事故などの緊急事態のとき、業務放送に優先して行う放送です。

*³業務放送：呼び出し・連絡・BGMなど一般の放送です。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）	…………… 1冊	「非常放送のしかた」手順書（収納ケース付）	…………… 1枚
工事説明書（設置工事編）	…………… 1冊	保証書	…………… 1式
工事説明書（書き込み編）	…………… 1冊		

※設置工事に使用する付属品については、工事説明書（設置工事編）に記載しています。

免責について

この商品は、感知器などからの信号を受信した場合に非常放送を放送する設備であり、この商品単独で避難誘導するものではありません。

弊社はいかなる場合にも以下に関して、一切の責任を負わないものとします。

- ① 工事説明書・設置工事編記載の内容に反した工事、使用により発生した損害・被害
- ② 本商品の不良・不具合以外の事由（設置工事の不備、建屋側取付面の不良などを含む）による落下、転倒などによる損害・被害
- ③ 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
- ④ お客さまの故意、誤使用や不注意による損害、または本商品の破損等
- ⑤ お客さまによる本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
- ⑥ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、放送ができないなどによる不便・損害・被害
- ⑦ 第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑧ 本商品の点検が適切に行われていない結果、発生した損害・被害

記号のみかた



重要 : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



memo : 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに

商品概要	2
付属品をご確認ください	3
免責について	3
記号のみかた	3
安全上のご注意	5
使用上のお願い	7
各部のなまえと働き	9
本体部	9
非常操作ユニット部	10

操作

非常放送のしくみ	16
概要	16
非常放送のしかた (1) 感知器起動	20
非常放送のしかた (2) 感知器起動	22
非常放送のしかた (3) 発信機・非常電話起動 (発報)	24
非常放送のしかた (4) 発信機・非常電話起動 (火災)	26
非常放送のしかた (5) 手動起動 (発報)	28
非常放送のしかた (6) 手動起動 (火災)	30
緊急放送のしかた	32
緊急放送とは	32
緊急放送スイッチによる放送	33
外部制御入力による緊急放送	34
停電時の緊急放送	35
業務放送のしかた	36
非常操作ユニットからの放送	36
内蔵メッセージの放送	37
外部制御入力による放送	38
BGM放送について	39
汎用出力スイッチ機能について	40
各放送の優先順位について	41
モニター音量の調整	42
相互通話のしかた	43

必要なとき




日常点検	44
電源の点検	44
自動点検	46
保守点検	48
点検の種類について	48
点検のしかた	48
非常放送用語の説明	52
故障かな!?	53
仕様	54
保証とアフターサービス	59

安全上のご注意



必ずお守りください

お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています（下記は絵表示の一例です）。

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

危険

蓄電池に強い衝撃を与えない



ハンマーなどでたたいたり、くぎなどを打ち込んだりしないでください。発火・破裂の原因になります。

蓄電池を分解しない



分解禁止

電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因になります。

蓄電池の⊕ ⊖ 端子をショートさせない



禁止

発熱、発火の原因になります。

蓄電池を火の中に入れない



禁止

火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因になります。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店にご依頼ください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

- ただちに分電盤の電源を切り、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに分電盤の電源を切り、販売店にご連絡ください。

周囲に物を置かない



禁止

非常時の操作を妨げる原因になります。

- 指定範囲内は常に整理、整頓してください。

定期的に点検をする



非常時に適切な避難誘導が行えない原因になります。

- 点検は、販売店や保守契約店に依頼してください。

機器の上に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- ただちに分電盤の電源を切り、販売店にご連絡ください。

機器の上に乗らない、ぶらさがらない



禁止

倒れたり、落ちたりして、けが、器物破損の原因になります。

注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する



感電の原因になります。

通風孔をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のお願い

●保守点検契約のお願い

- ・非常用放送設備は、消防法により定期的・総合的な保守点検の実施、消防署への報告、および点検結果の維持台帳への記録が義務付けられています。
また、点検をする人は消防設備士や消防設備点検資格者でなければなりません。
- ・非常用放送設備を正しく動作させるために、保守点検契約をしてください。
詳しくは販売店（工事店）、または販売会社にお問い合わせください。
- ・保守点検費用は有償です（製品の保証期間とは関係ありません）。結ばれた契約に基づき、消防設備士や消防設備点検資格者がご使用者に代わって定期的・総合的な保守点検業務を実施します。

●日常点検をしてください。

- 万一の際（非常時）にも機器が正常に動作するよう日常点検を行ってください。特に非常放送用の非常電源は必ず点検してください。（日常点検→44ページ）
- ・蓄電池に異常がある場合、そのユニットに内蔵している全数の蓄電池を交換してください。交換は販売店または保守契約店に依頼してください。
 - ・蓄電池の寿命は使用するしないにかかわらず4年間です。これを過ぎると、たとえ点検時に正常電圧が表示されても交換が必要です。

●日常点検で異常がある場合は、ただちに販売店または保守契約店に連絡してください。

●必ず定期的に保守点検を行ってください。

日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、すべてではありません。必ず定期的に総合的な保守点検を行ってください。

●非常放送の設定内容は変更できません。

非常用放送設備は、設定された仕様を管轄消防署に届けているため、安易に設定内容を変更することはできません。運用開始後の非常放送設定の変更は、管轄消防署の確認が必要です。

●本機内部には、電圧の高い部分がありますので、操作パネル部は絶対に開けないでください。

●分電盤のブレーカーは絶対に切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。

非常電源に組み込まれた蓄電池は、停電でも放送できるように常に充電が必要です。本機を接続した分電盤のブレーカーは、絶対に切らないようにしてください。

●使用温度範囲は0℃～+40℃です。

この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因になります。

●本機の上や周囲に物を置かないでください。

本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障や落下の原因になります。また、左右0.5 m以内、操作面から2 m以内に物を置かないでください。操作の妨げになります。

●「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。

非常時に確実な操作ができるように、「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。本機の上には絶対に置かないでください。また手順書は設定された起動方式に該当するページがすぐに見られる状態に常に保ってください。

使用上のお願い

●お手入れのしかた

ケースが汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。ベンジン、シンナーなどでふくと変質したり、塗料がはがれたりすることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

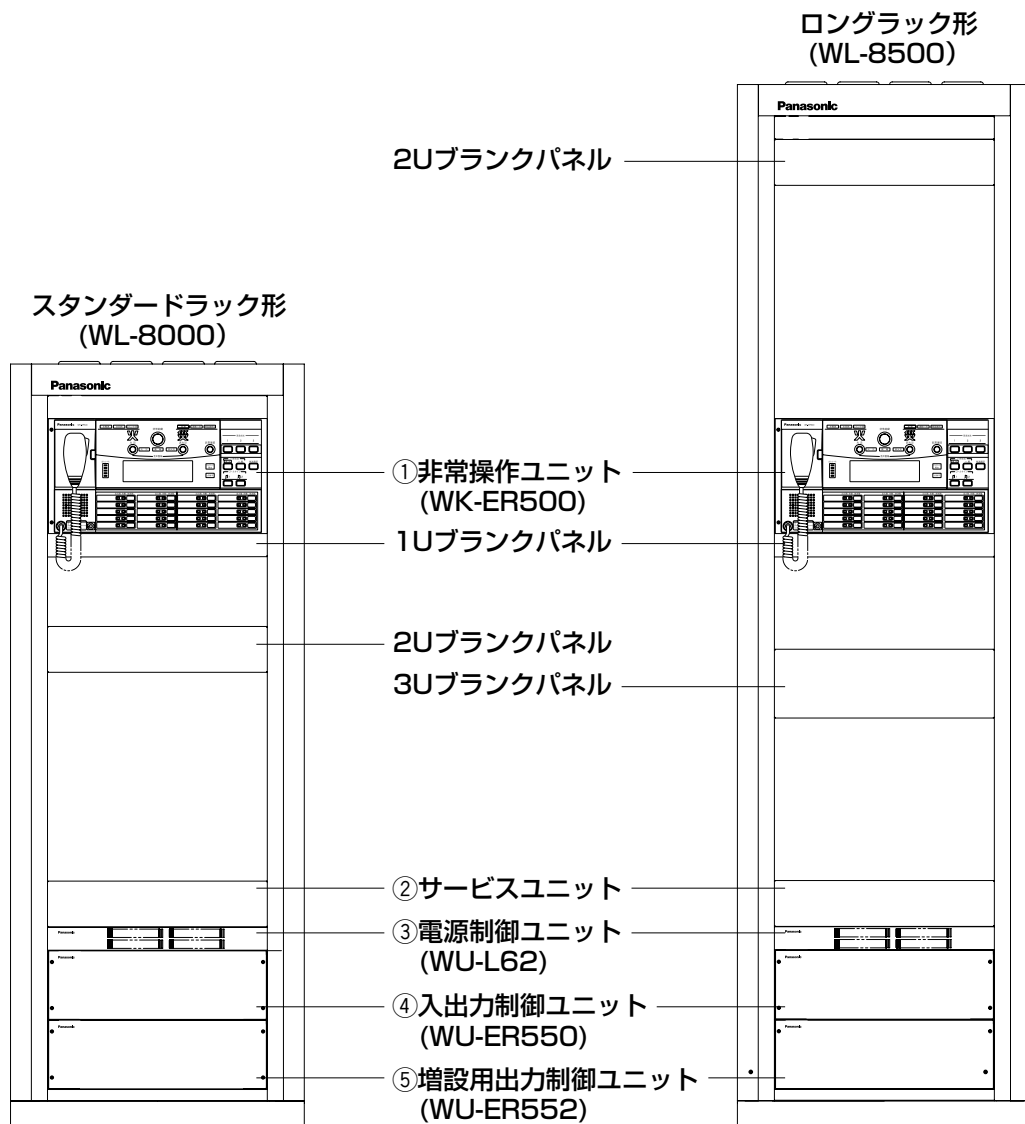


●重要

- お手入れは、スイッチに触れないように、注意して行ってください。
 - スイッチに触れると、非常放送などが作動する場合があります。
 - 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。
-

各部のなまえと働き

■本体部



はじめに

● 上図は非常用放送設備WL-8000/8500の構成図です。ご使用時には、電力増幅ユニットや増設用操作ユニット、業務用放送機器が収納されますので、配置は異ってきます。

① 非常操作ユニット (WK-ER500)

全館一斉、出火階と連動階などへ非常放送を行います。また、一般の業務放送もできます。

② サービスユニット

設置工事で機器をラックに取り付けるときや、修理・点検で機器を出し入れするときに使用します。

③ 電源制御ユニット (WU-L62)

非常操作ユニット、入出力制御ユニット、増設用出力制御ユニット、電力増幅ユニット、非常電源ユニット、非常リモコンなどの機器に電源を供給・制御するためのユニットです。

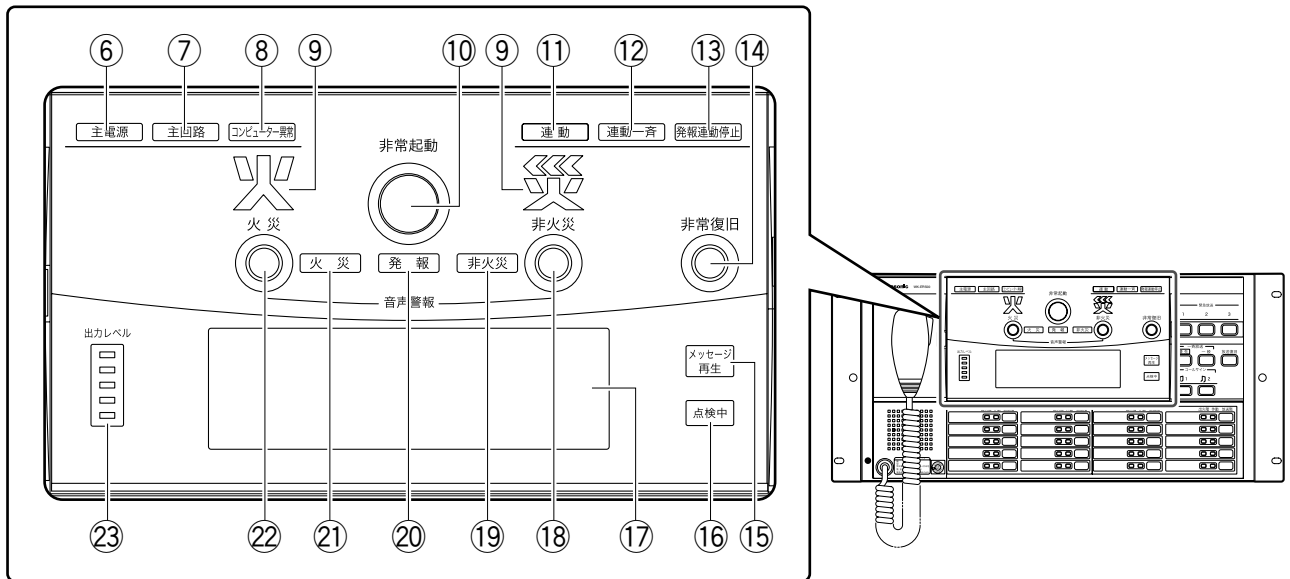
④ 入出力制御ユニット (WU-ER550)

非常リモコン、マルチリモコンなど周辺機器の接続、制御用のユニットです。

⑤ 増設用出力制御ユニット (WU-ER552)

スピーカー回線の接続、制御用のユニットです。

■非常操作ユニット部



⑥主電源表示灯【主電源】（緑色）

点灯：本体に主電源（AC100 V）が正常に供給されています。
消灯：停電です。

⑦主回路表示灯【主回路】（緑色/赤色）

緑色点灯：本体内部の主回路電圧（DC24 V）は正常です。
赤色点灯：異常です。販売店または保守契約店に連絡してください。

⑧コンピューター異常表示灯【コンピューター異常】（赤色）

点灯：コンピューターに異常があります。販売店また保守契約店に連絡してください。
異常時は放送を停止します。放送を行うときは、マイクドア内のコンピューター制御スイッチ（→14、15ページ）を「切」にし、本体マイクで放送します。放送は一斉放送になります。
消灯：正常です。

⑨火災灯【火災（大きな表示灯）】（赤色）

非常起動すると、点滅または点灯します。
点滅：非常起動（火災感知器・発信機・非常電話など）による発報放送中、または発報放送のあと操作待機、非常起動スイッチを押したあとの操作待機中
点灯：火災放送中、または火災放送のあとの操作待機中

⑩非常起動スイッチ【非常起動】

手で非常放送するときに押します。
発報放送時または火災音信号（ピーピーピー音）が鳴っているときに押すと、火災放送を放送します。

⑪連動表示灯【連動】（赤色）

点灯：感知器・発信機などから起動すると、出火階と連動階に非常放送を放送します（設定は書き込みで行います）。

⑫連動一斉表示灯【連動一斉】（赤色）

点灯：感知器・発信機などから起動すると、全館一斉に非常放送を放送します（設定は書き込みで行います）。

⑬発報連動停止表示灯【発報連動停止】（赤色）

点灯：感知器から起動すると、発報放送は放送されません。本体のモニタースピーカーから火災音信号（ピーピー）が鳴ります（設定は書き込みで行います）。

⑭非常復旧スイッチ【非常復旧】

非常放送を復旧するときに押します。

※感知器が作動している間は非常放送状態は復旧しません。

⑮メッセージ再生表示灯【メッセージ再生】（緑色）

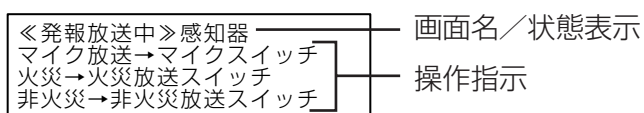
点灯：業務放送や緊急放送で、本体に内蔵されたメッセージを再生中です。

⑯点検モード表示灯【点検中】（緑色）

点灯：保守点検などで、点検を実行しています。

⑰液晶画面

非常放送時の操作指示、異常発生時の内容、動作状態などを表示します。



⑱非火災放送スイッチ【非火災】

火災でないことを確認したときに押します。非火災放送を放送します。

⑲非火災放送表示灯【非火災】（緑色）

非火災放送スイッチを押すと点灯します。

点灯：非火災放送中

点滅：非火災放送のあと操作待機

⑳発報放送表示灯【発報】（だいだい色）

点灯：発報放送中

点滅：発報放送のあと操作待機

㉑火災放送表示灯【火災】（赤色）

火災放送スイッチを押すと点灯します。

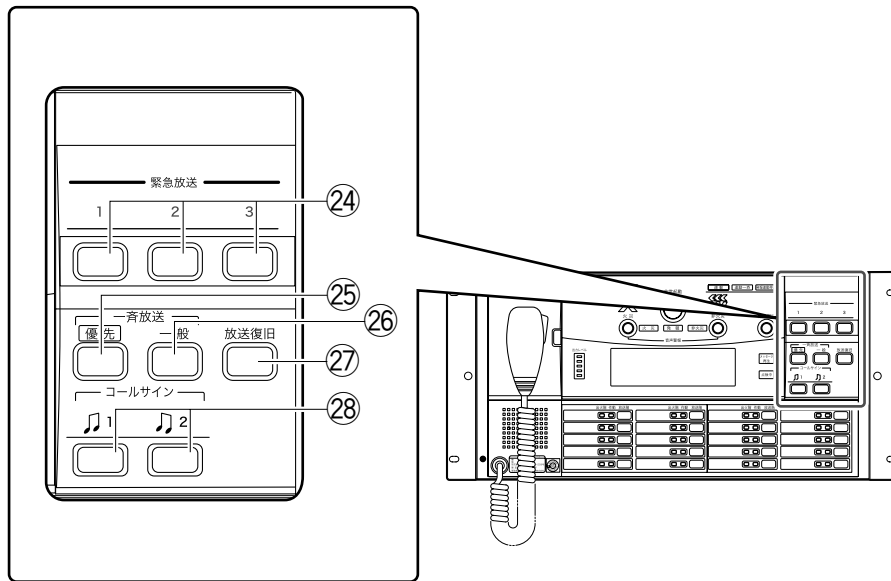
㉒火災放送スイッチ【火災】

火災を確認したときに押します。火災放送を放送します。

㉓出力レベルメーター【出力レベル】

非常操作ユニットの音声出力レベルを表示します。

各部のなまえと働き



②④緊急放送スイッチ 1、2、3 [緊急放送1～3]

手動で緊急放送するときには押します。あらかじめ設定したメッセージを、設定した放送先に放送します。

②⑤優先斉放送スイッチ [斉放送 優先]

全館に斉放送するときには押します。すべての放送階の階別作動表示灯が点灯します。

スピーカー配線が3線式の時、音量調整器がOFF位置の放送階でも最大音量で放送されます。

②⑥一般斉放送スイッチ [斉放送 一般]

全館に斉放送するときには押します。すべての放送階の階別作動表示灯が点灯します。

音量調整器の調整音量で放送されます。音量調整器がOFFに設定された放送階には放送されません。

スピーカー配線が3線式の時音量調整器がOFF位置の放送階でも、非常放送時、緊急放送時は、最大音量で放送されます。

②⑦放送復旧スイッチ [放送復旧]

放送終了時に押します。選択されていた放送階はすべて解除されます。

すべての放送階の階別作動表示灯が消灯します。

②⑧コールサインスイッチ [コールサイン ♪₁ ♪₂]

業務放送中に押すと、コールサイン音が放送されます。

お買い上げ時、各スイッチは次のように設定されています。

1：上り4音 ♪

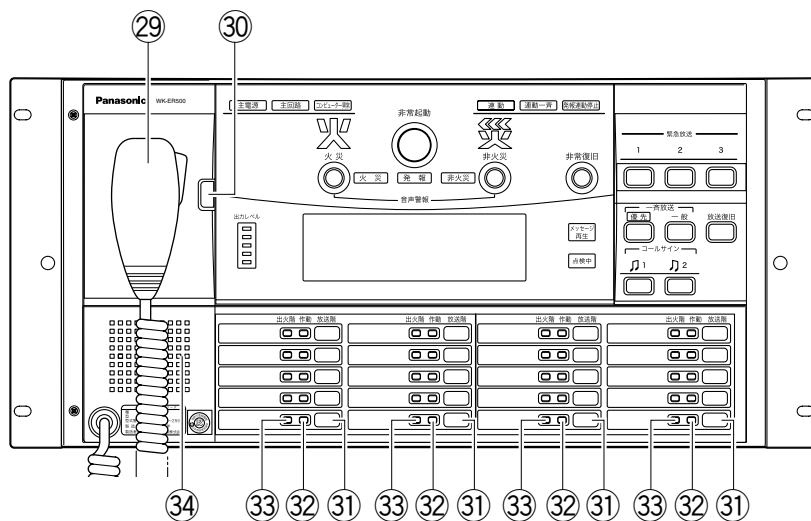
2：下り4音 ♪

内蔵しているほかのコールサインも設定できます。

詳しくは販売店にご相談ください。



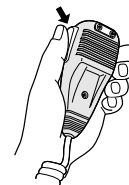
- 非常放送時や緊急放送時はスイッチを押しても放送されません。



②⑨ 非常、業務放送兼用マイクロホン（以下、本体マイク）

- ・マイクを取り、マイクスイッチを押しながら放送します。
- ・業務放送中に非常放送が入った場合、マイク放送は遮断され非常放送に切り換わります。
 感知器・発信機・非常電話からの起動のときは、音声警報が放送されます。
 非常起動スイッチを押した手動起動のときは、放送されません。
- ・マイク放送をするときは、マイクスイッチを一度離し、再度押します。手動起動のときは、放送階選択スイッチを押して放送先を選択します。
- ・マイク放送は音声警報より優先されるので、適切に避難誘導を行ってください。

マイクスイッチを押す



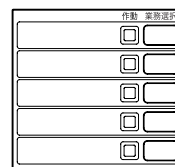
③⑩ マイクドア

ドアを開くと、設定のためのスイッチがあります。

③⑪ 放送階選択スイッチ【放送階】

放送する階を選択するときには押します。階別作動表示灯が点灯します。
 再度押すと、選択が解除され、階別作動表示灯が消灯します。

業務操作用



・書き込み設定で業務操作用にしたときは、右上の表示カードを使用します。働きは同じですがスイッチのなまえは**業務選択スイッチ【業務選択】**になります。

③⑫ 階別作動表示灯【作動】（緑色）

点灯：該当する階のスピーカーから放送できます。
 放送階選択スイッチを押すと、選択した階の表示灯が点灯します。
 一斉放送スイッチを押すと、すべての階の表示灯が点灯します。
 感知器などの作動で非常放送が起動すると、出火階と連動階が点灯します。
 点滅：該当する階のスピーカー回線が短絡しています。販売店または保守契約店に連絡してください。



・スイッチを業務操作用の業務選択スイッチにしたときは、働きは同じですがなまえは**作動表示灯【作動】**になります。

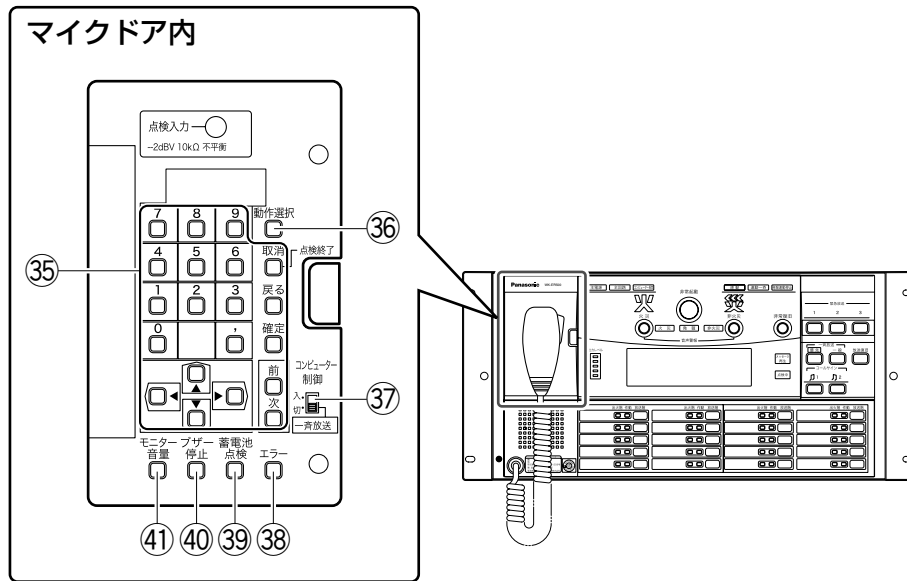
③⑬ 出火階表示灯【出火階】（赤色）

点灯：該当する階で感知器・発信機・非常電話などが作動しています。

③⑭ モニタースピーカー

放送状態を確認できます。ハウリング防止のため、本体マイクのマイクスイッチを押している間、モニタースピーカーから音は出なくなります。

各部のなまえと働き



③⑤書き込み設定スイッチとキー

機器構成設定、非常放送設定、緊急放送設定、業務放送設定などの書き込みを行うスイッチとキーです。ここでは通常操作で使用する部分のみを説明します。詳細については「工事説明書 書き込み編」で説明しています。

- カーソルキー [▲▼◀▶]
モニタースピーカー音量の調整、メニューの選択、数値の増減に使用します。
- 取消スイッチ [取消]
入力した数値を修正するときや、点検終了に使用します。
- 戻るスイッチ [戻る]
現在表示中の画面から1つ前の画面に戻るときに使用します。
- 確定スイッチ [確定]
非常放送設定やモニター音量設定を液晶画面で確認するときに押します。
- 前スイッチ [前] / 次スイッチ [次]
エラー詳細内容の画面を切り換えるときに使用します。

③⑥動作選択スイッチ [動作選択]

通常動作中に押して、動作モードを切り換えます。押すたびに、液晶画面の表示が<通常動作>→<非常放送設定確認>→<点検モード>→<書き込みモード>と切り換わります。

非常放送中および緊急放送中は切り換わりません。

- 通常動作 : 通常はこの状態を選択します。
- 非常放送設定確認 : 発信機手動起動設定、発報放送回数、第1タイマー、第2タイマーの各設定内容を確認する場合に選択します。
- 点検モード : 保守点検を行う場合に選択します。
- 書き込みモード : 機器構成設定、非常放送設定、緊急放送設定、業務放送設定などの書き込みを行う場合に選択します。
書き込みを行うためには、パスワードの入力が必要となります。

③⑦ コンピューター制御スイッチ【コンピューター制御】【入】【切】

入：通常は必ずこの状態を選択します。

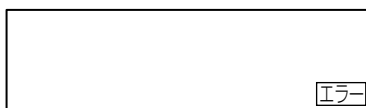
切：コンピューター異常時に【切】にすると、本体マイクで一斉放送ができます。

スピーカー配線が3線式のときは、音量調整器がOFF位置の放送階でも最大音量で放送されます。

異常が発見されて修理されたあとに、【切】から【入】に戻すと、正常の動作に戻ります。

③⑧ エラースイッチ【エラー】

液晶画面の右下に「エラー」が表示されたときに押します。液晶画面の表示が<異常詳細表示>に切り換わります（→44ページ）。確認した内容を販売店または保守契約店に連絡してください。



③⑨ 蓄電池点検スイッチ【蓄電池点検】

本体に接続した非常放送用の非常電源ユニット（WP-570B）に収納した蓄電池の点検用スイッチです。異常があるとき、液晶画面に「エラー」と表示されます（→44ページ）。

④⑩ ブザー停止スイッチ【ブザー停止】

異常発生を知らせるブザー音を止めるときに押します。

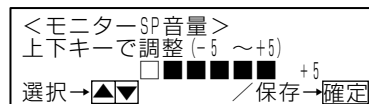
ブザーは蓄電池異常、通信異常、EMG24 Vブレイク異常などのときに鳴ります。

ブザー音を止めても異常状態は解消しませんので、販売店または保守契約店に連絡してください。

④⑪ モニター音量スイッチ【モニター音量】

モニタースピーカーの音量を調整するときを押すと、液晶画面にモニター音量が表示されます。カーソルキー（▲、▼）を押して音量を調整し、確定スイッチを押して音量を確定します。

非常放送時は設定に関係なく、最大音量になります。



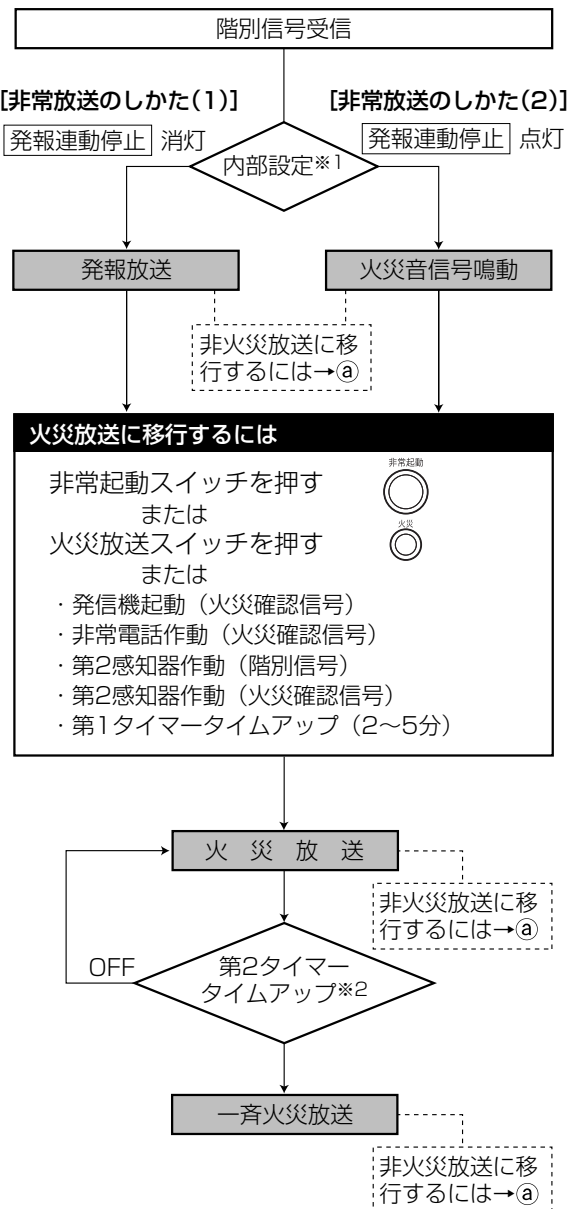
非常放送のしくみ

概要

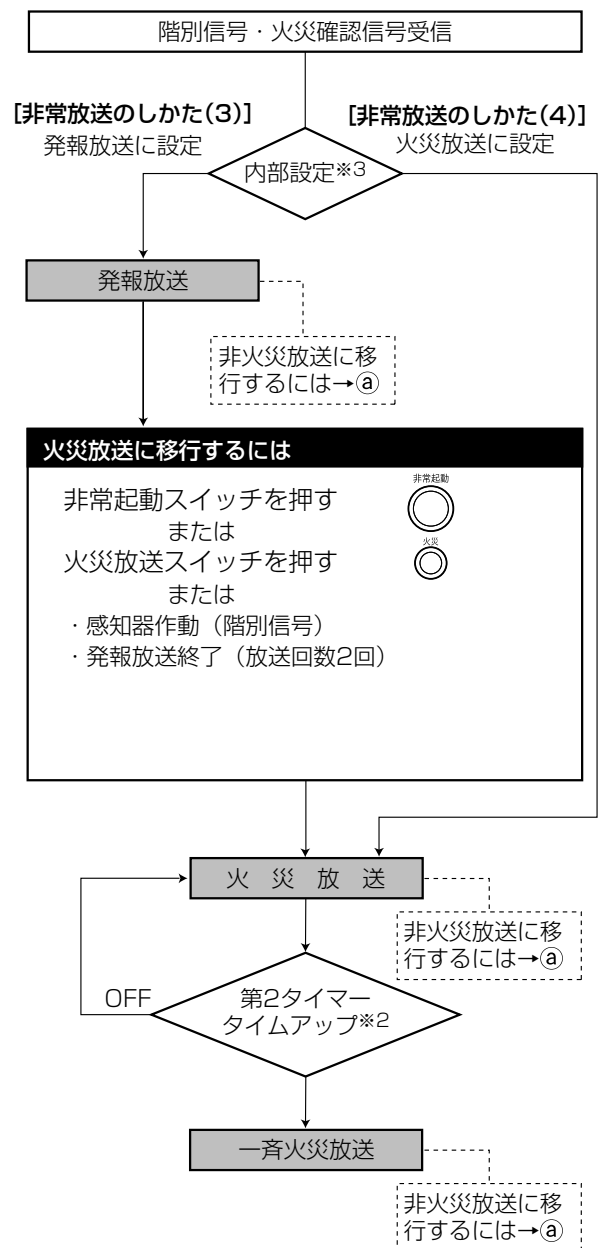
- 非常放送には発報放送、火災放送、非火災放送があります。
 - ・ 発報放送は火災感知器・発信機・非常電話などが作動したことを知らせる放送です。
 - ・ 火災放送は火災が発生したことを知らせる放送です。
 - ・ 非火災放送は火災ではなかったことを知らせる放送です。
- 非常放送は内蔵された音源（音声警報など）を放送しますが、本体マイクからも放送できます。
- 非常時の操作のしかたや放送の流れは、登録された設定内容（起動方法）によって異なり、以下の概略チャートに示される6通りがあります。必ず販売店（工事店）に設定内容をご確認ください。
- それぞれの詳しい操作方法は20ページ以降をお読みください。

操作

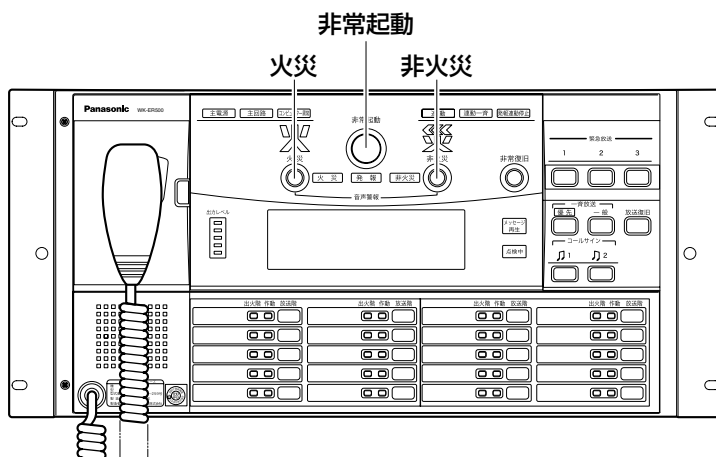
● 感知器起動



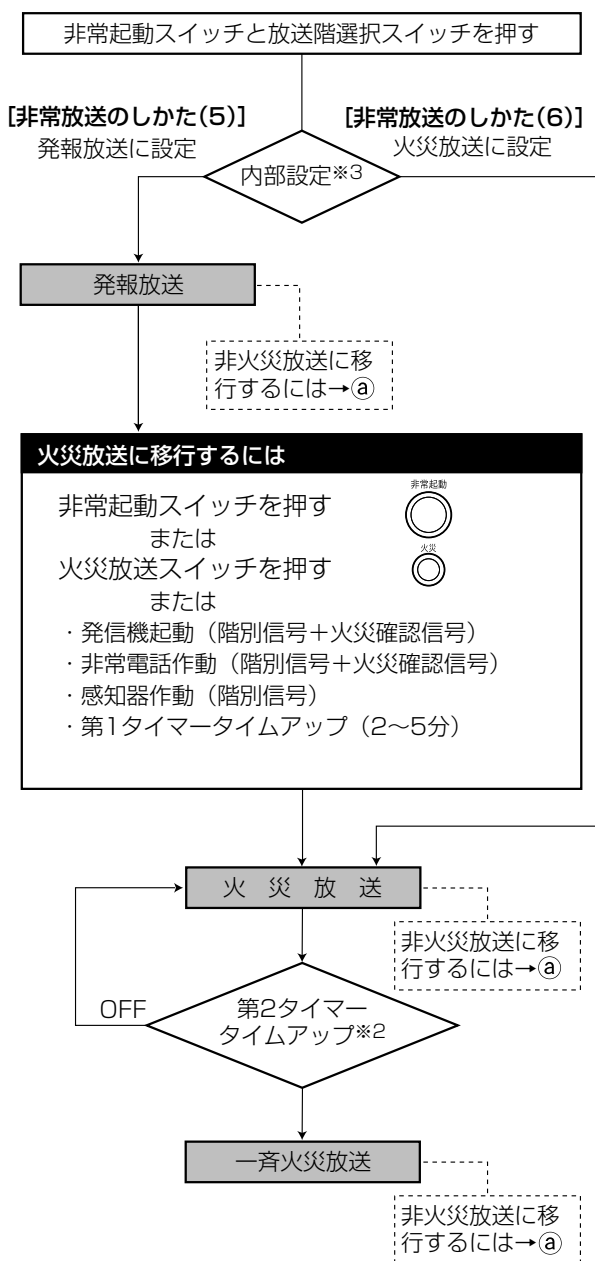
● 発信機・非常電話起動



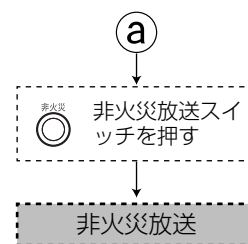
● 発信機・非常電話起動で階別信号と火災確認信号が同時に入らない場合は、感知器起動の動作になります。



●手動起動



●非火災放送に移行するには
非火災放送スイッチを押します。



●増設階情報（別売品）を使用して階情報変更ができません（販売店にご相談ください）。

- ※1 発報連動停止の有無設定
- ※2 一斉火災放送移行時間の設定（OFF、0分、2～5分）
- ※3 発報放送か火災放送かの設定

非常放送のしくみ

●マイク放送について

- ・非常放送（音声警報）中のマイク放送は、音声警報より優先して放送されます。状況を把握し放送してください。
- ・本体マイクで業務放送中に、火災感知器、発信機または非常電話の起動で非常放送が入った場合、マイク放送は遮断され、非常放送（音声警報）に切り換わります。避難誘導などを放送するときは、本体マイクのスイッチを一度離し、再度スイッチを押してください。
- ・マイク放送後は、下記の状態になります。
 - 発報放送中のマイク放送後　：無音、第1タイマー継続
 - 非火災放送中のマイク放送後：無音
 - 火災放送中のマイク放送後　：第2シグナル音が鳴ります

●放送復旧スイッチを押したあとの動作について

- 発報放送中の放送復旧後　：無選択、無音、第1タイマー継続
 - 非火災放送中の放送復旧後：無選択、無音
 - 火災放送中の放送復旧後　：無選択、無音、第2タイマー継続
- 注) 第2タイマータイムアップによる一斉火災放送中は、放送復旧スイッチを押しても復旧しません。
無選択とは、放送階選択スイッチが解除され、階別作動表示灯がすべて消灯している状態です。

●連動表示が点灯している場合

火災感知器、発信機または非常電話から起動した非常放送は、出火階と連動階に放送されます。

●連動一斉表示が点灯している場合

火災感知器、発信機または非常電話から起動した非常放送は、全館一斉に放送されます。

●第1タイマー設定について

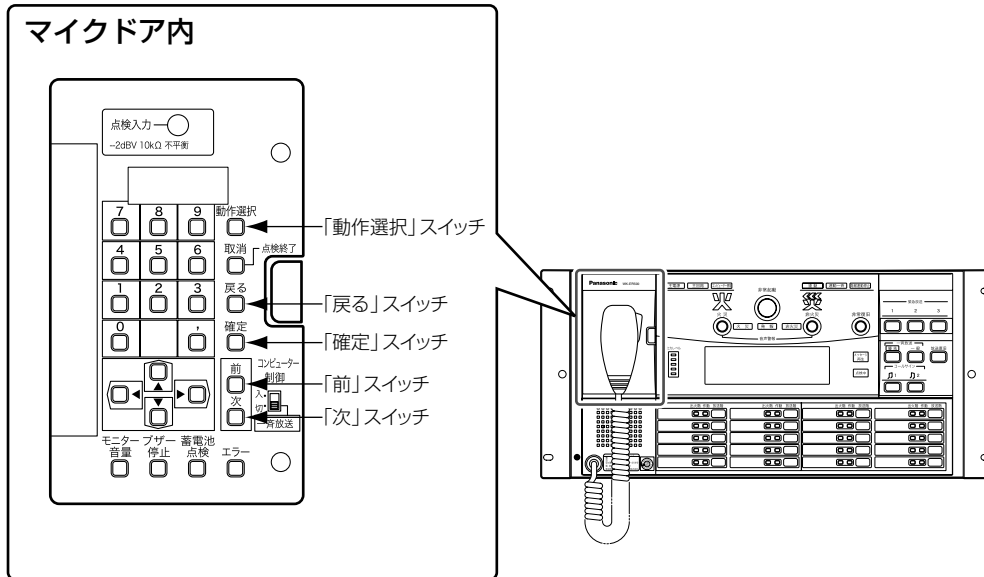
第1タイマー（火災放送移行タイマー）は、2～5分に設定できます（出荷時は5分に設定）。

●第2タイマー設定について

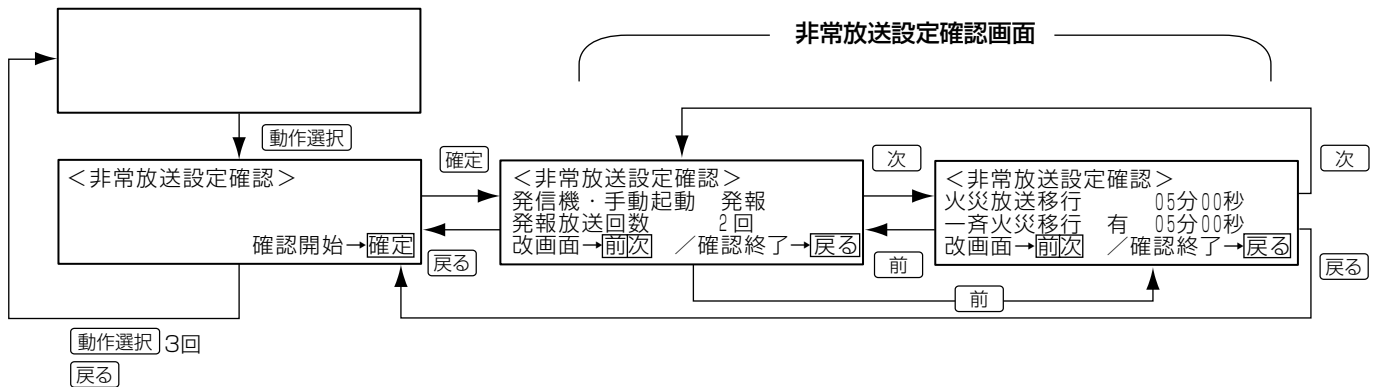
- 第2タイマー（一斉火災放送移行タイマー）は、OFF、0分、2～5分に設定できます（出荷時は5分に設定）。
- OFF　　：一斉火災放送に移行しません。
 - 0分　　：すぐに一斉火災放送に移行します。
 - 2～5分　：設定した時間経過のあと、一斉火災放送に移行します。

●設定内容の確認について

- ・ 発信機起動時、手動起動時の設定の切り換え、発報放送回数、火災放送移行時間（第1タイマー）、一斉火災放送移行時間（第2タイマー）の設定内容を液晶画面上で確認できます。
- ・ マイクドア内にある動作選択スイッチを押して<非常放送設定確認>画面を表示し、各スイッチを操作して画面上で設定内容を確認します。

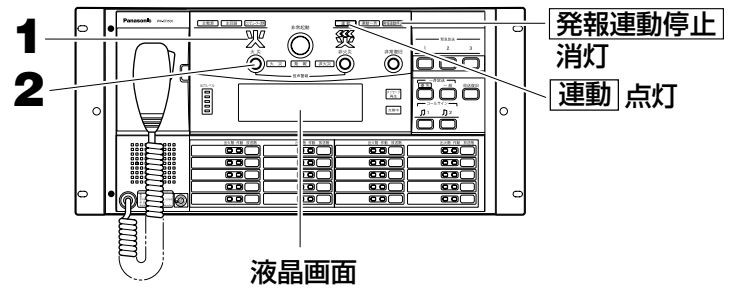



通常画面



非常放送のしかた(1) 感知器起動

発報連動停止 表示→消灯 (出荷時：消灯)
連動 表示→点灯



 (階別信号入力)
感知器から信号が入る
(第一報)

1 火災灯が点滅し、出火階と連動階に発報放送のメッセージが放送される

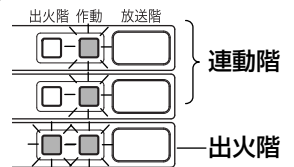
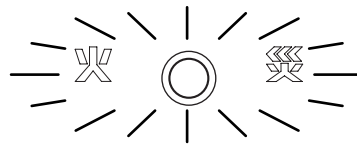
ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「ただいま〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

連動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

- 発報放送終了後、モニタースピーカーから火災音信号 (ピーピー) が放送されます。

液晶画面

《発報放送中》感知器
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



2 操作を選択する

- 火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動
スイッチを押す



以下の場合も自動的に火災放送のメッセージが放送されます。

- 発信機起動 (火災確認信号)★
- 非常電話作動 (火災確認信号)★
- 第2感知器作動 (階別信号)★
- 第2感知器作動 (火災確認信号)★
- 第1タイマータイムアップ (2~5分)

★印のときは発報放送終了後、火災放送に切り換わります。

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

3 火災放送のメッセージが放送される

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「火事です! 火事です! 〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送のメッセージが放送される (一斉火災放送)

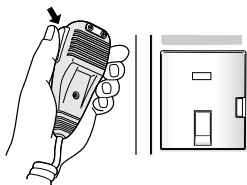
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

マイクスイッチを押す

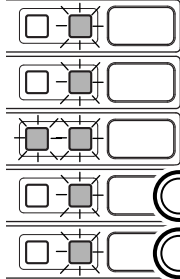


- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- **連動一斉** 表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 発報放送時にマイク放送したあとは無音となります（第1タイマーは継続します）。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを離すと第2シグナル音（ビュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する

出火階 作動 放送階



- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

出火階

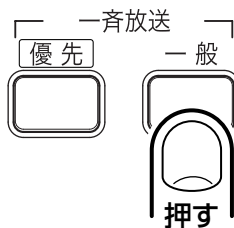
押す

押す

追加階

b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送のメッセージが放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

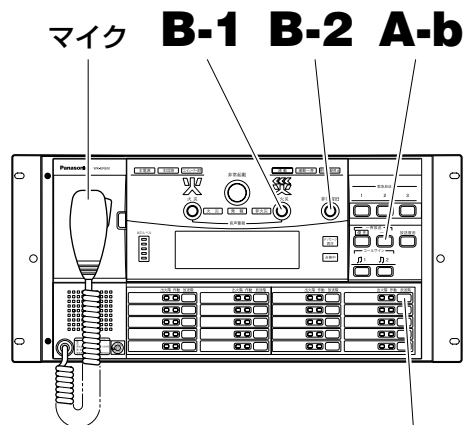
液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

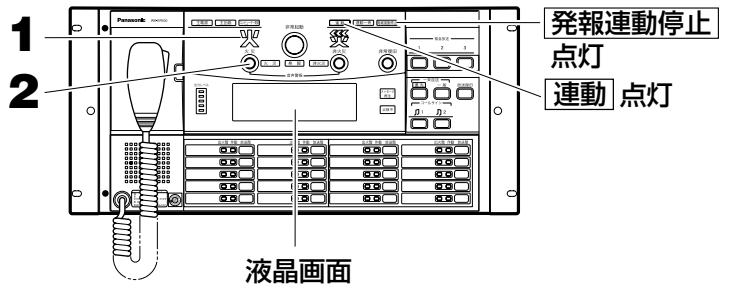
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。



非常放送のしかた(2) 感知器起動

発報連動停止 表示→点灯 (出荷時：消灯)

連動 表示→点灯



(階別信号入力)
感知器から信号が入る
(第一報)

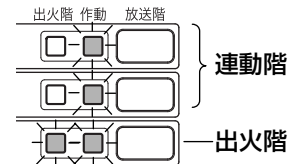
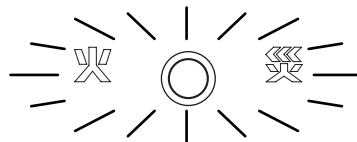
1 火災灯が点滅し、モニタースピーカーから火災音信号とメッセージが放送される

ピー、ピー、ピー、(火災音信号)

火災感知器が作動した。火災のときは火災放送スイッチを押せ。火災でないときは非火災放送スイッチを押せ。

液晶画面

《非常放送中》感知器
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



2 操作を選択する

- 火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す



- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

以下の場合も自動的に火災放送のメッセージが放送されます。

- 発信機起動(火災確認信号)
- 非常電話作動(火災確認信号)
- 第2感知器作動(階別信号)
- 第2感知器作動(火災確認信号)
- 第1タイマータイムアップ(2~5分)

3 火災放送のメッセージが放送される

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です!火事です!〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送のメッセージが放送される (一斉火災放送)

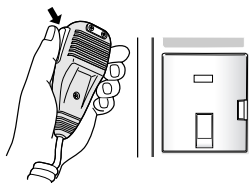
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

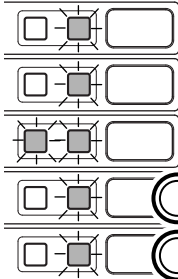
マイクスイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- **連動一斉** 表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災信号音（ピーピーピー）放送時にマイク放送したあとは無音となります（第1タイマーは継続します）。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを離すと第2シグナル音（ビュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき
必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する

出火階 作動 放送階

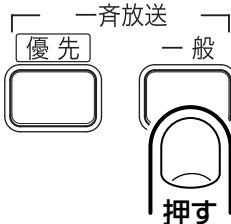


- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

出火階

押す } 追加階
押す }

b 一斉放送するとき
一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送のメッセージが放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

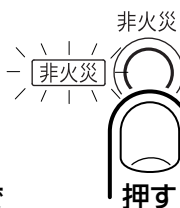
液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

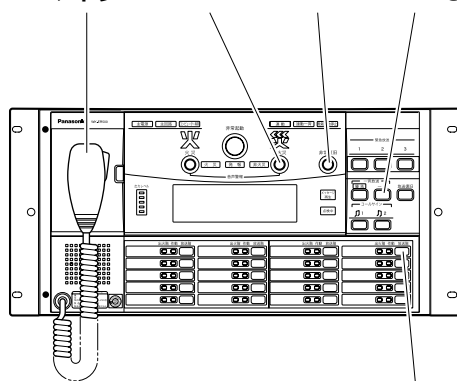
- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



マイク **B-1 B-2 A-b**



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

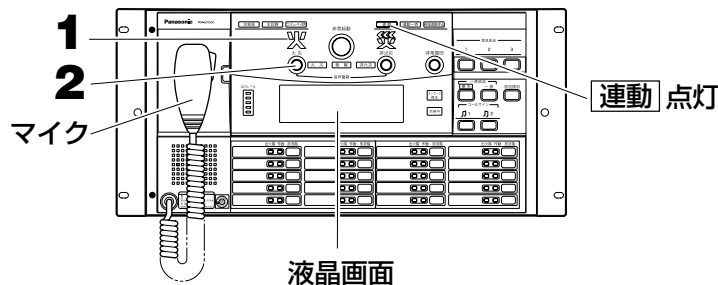
非常復旧



非常放送のしかた(3) 発信機・非常電話起動(発報)

「発報放送」に設定の場合(出荷時:発報放送)

連動表示→点灯



(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号が入る
(第一報)

操作

1 火災灯が点灯し、出火階、連動階に発報放送のメッセージが放送される

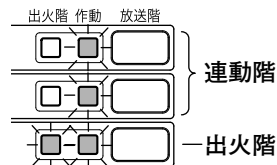
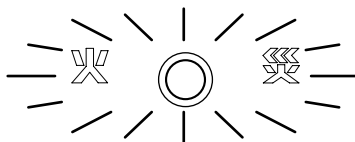
ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「ただいま〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

連動一斉表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

液晶画面

《発報放送中》発信機
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



2 操作を選択する

●火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動
スイッチを押す



以下の場合も自動的に火災放送のメッセージが放送されます。

- 感知器作動(階別信号)★
- 発報放送終了(放送回数2回)

*印のときは発報放送終了後、火災放送に切り換わります。

●状況に応じてマイクで放送する
→Aへ

注意

発報放送時にマイク放送したあと、マイクスイッチを切ると火災放送に移行します。

●火災でないことを確認したとき
→Bへ

3 火災放送のメッセージが放送される

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です!火事です!〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ(設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送のメッセージが放送される(一斉火災放送)

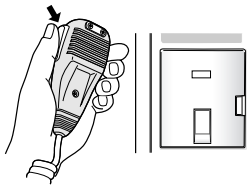
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

マイクスイッチを押す

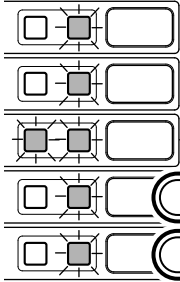


- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- **連動一斉** 表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを離すと第2シグナル音（ビュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する

出火階 作動 放送階



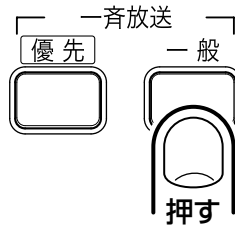
- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

出火階

押す } 追加階
押す }

b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送のメッセージが放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

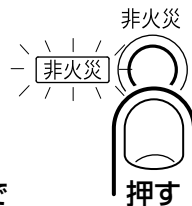
液晶画面

＜非火災放送中＞
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

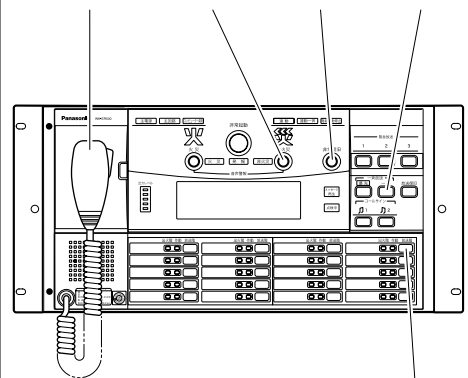
- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



マイク B-1 B-2 A-b



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

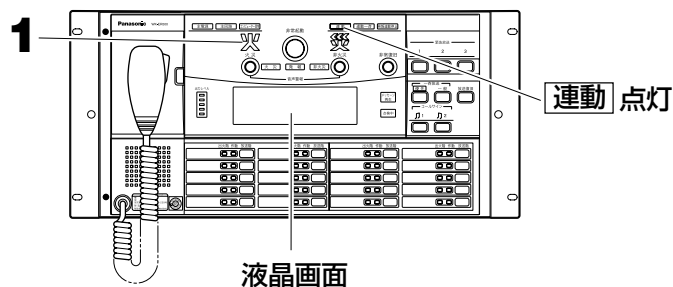
非常復旧



非常放送のしかた(4) 発信機・非常電話起動(火災)

「火災放送」に設定の場合(出荷時:発報放送)

連動表示→点灯



(階別信号+火災確認信号の同時入力)
発信機・非常電話から信号が入る
(第一報)

操作

1 火災灯が点灯し、出火階、連動階に火災放送のメッセージが放送される

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

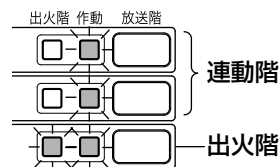
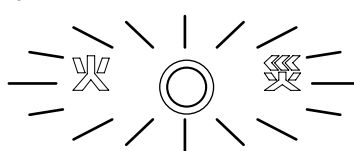
「火事です!火事です!○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」

ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

連動一斉 表示灯点灯時は全館一斉に放送されます。

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

2 全館に火災放送のメッセージが放送される (一斉火災放送)

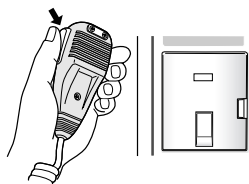
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

マイクスイッチを押す

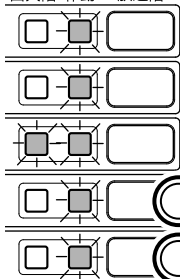


- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- **連動一斉** 表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを離すと第2シグナル音（ビュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき

必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する

出火階 作動 放送階



- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

出火階

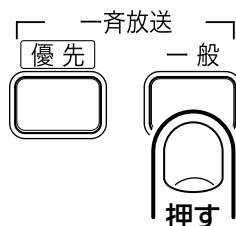
押す

追加階

押す

b 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送のメッセージが放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

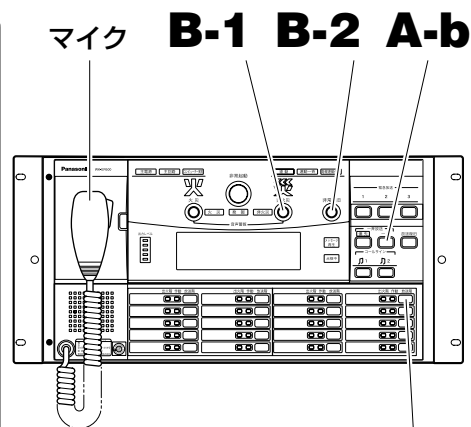
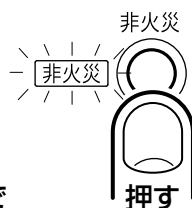
液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

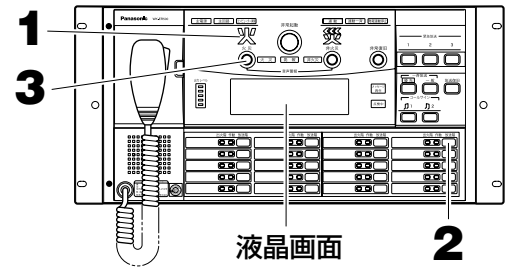
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧



非常放送のしかた (5) 手動起動 (発報)

「発報放送」に設定の場合 (出荷時: 発報放送)



手動起動には、連動と個別の2種類があります (出荷時は連動)。違いは、52ページをお読みください。

操作

1 非常起動スイッチを押す

放送階選択スイッチを押せ (音声指示)

液晶画面

《手動非常起動》
放送階選択スイッチを押せ



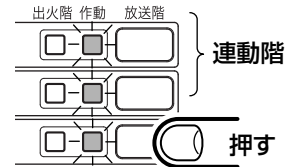
2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

液晶画面

《発報放送中》手動起動
マイク放送→マイクスイッチ
火災→火災放送スイッチ
非火災→非火災放送スイッチ



- 連動のとき選択階と連動階の階別作動表示灯が点灯
- 個別のときは選択階のみ点灯

3 操作を選択する

- 火災を確認したとき

火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す



以下の場合も自動的に火災放送のメッセージが放送されます。

- 発信機起動 (火災確認信号+階別信号)*
- 非常電話作動 (火災確認信号+階別信号)*
- 感知器作動 (階別信号)*
- 第1タイマータイムアップ (2~5分)

*印のときは発報放送終了後、火災放送に切り換わります。

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ

マイクを外し、マイクスイッチを押すとマイク放送が優先して放送されます。

- 火災でないことを確認したとき →Bへ

4 火災放送のメッセージが放送される

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です! 火事です! (〇階で)*火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

※: 階別信号を受信して火災放送に切り換わったとき、階情報 (〇階で) が自動的に文章に追加されます。

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

5 全館に火災放送のメッセージが放送される (一斉火災放送)

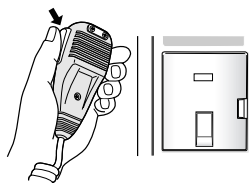
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

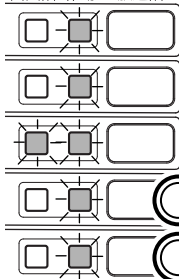
マイクスイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを離すと第2シグナル音（ビュービュービュー）が鳴ります。
- 発報放送時と非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき
必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する

出火階 作動 放送階



- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

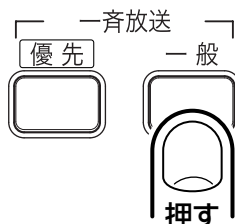
出火階

押す

追加階

押す

b 一斉放送するとき
一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送のメッセージが放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

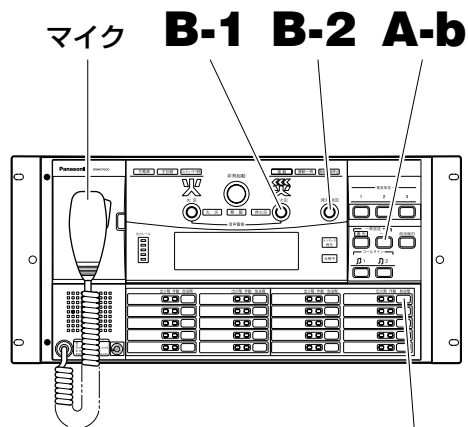
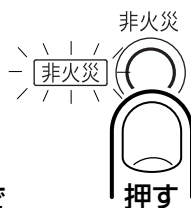
液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

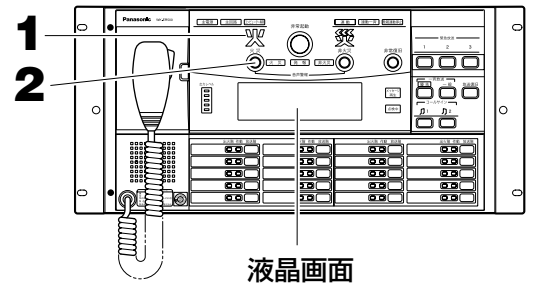
ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧



非常放送のしかた (6) 手動起動 (火災)

「火災放送」に設定の場合 (出荷時：発報放送)



手動起動には、連動と個別の2種類があります (出荷時は連動)。違いは、52ページをお読みください。

操作

1 非常起動スイッチを押す

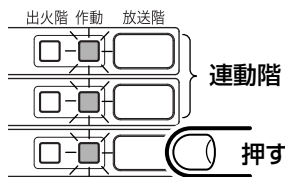
放送階選択スイッチを押せ (音声指示)

液晶画面

《手動非常起動》
放送階選択スイッチを押せ



2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す



- 連動のとき選択階と連動階の階別作動表示灯が点灯
- 個別のときは選択階のみ点灯

3 火災放送のメッセージが放送される

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)

「火事です! 火事です! 火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

液晶画面

《火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

第2タイマータイムアップ (設定時間 OFF、0分、2~5分)

- 「OFF」のときは、一斉火災放送に切り換わりません。

4 全館に火災放送のメッセージが放送される (一斉火災放送)

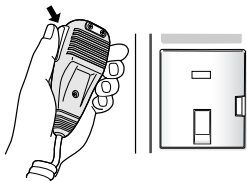
液晶画面

《一斉火災放送中》
マイク放送→マイクスイッチ
非火災→非火災放送スイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する →Aへ
- 火災でないことを確認したとき →Bへ

A 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）

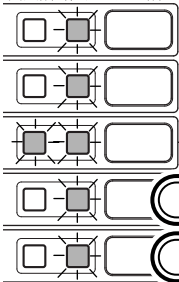
マイクスイッチを押す



- 階別作動表示灯が点灯している階にマイク音が放送されます。
- 火災放送時マイクで放送したあと、マイクスイッチを離すと第2シグナル音（ビュービュー）が鳴ります。
- 非火災放送時にマイク放送したあとは無音となります。

a 放送階を増やすとき
必要な階のスイッチを押して選択し、再びマイクで放送する

出火階 作動 放送階



- 選択階を取り消すには、その階のスイッチをもう一度押します。階別作動表示灯が消灯します。

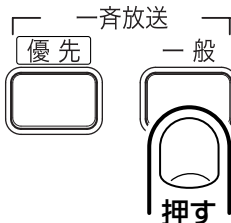
出火階

押す

押す

追加階

b 一斉放送するとき
一斉放送スイッチを押す



- 一斉放送一般スイッチを押しても優先一斉放送（アッテネーター（音量調整器）無効）の動きになります。

B 火災でないことを確認したとき

B-1 非火災放送スイッチを押す

非火災放送のメッセージが放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

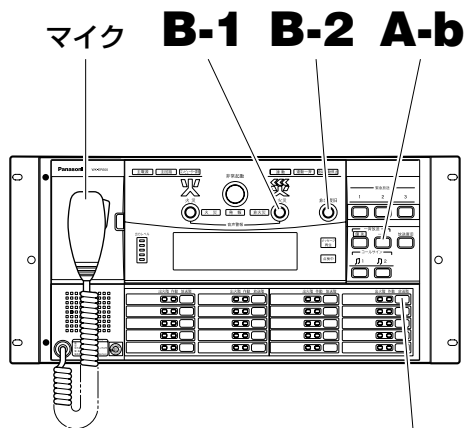
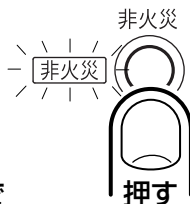
液晶画面

《非火災放送中》
火災感知器を停止させ
非常復旧スイッチを押せ
マイク放送→マイクスイッチ

- 状況に応じてマイクで放送する → Aへ

モニタースピーカーから音声指示が放送されます。

「火災でないときは、自動火災報知設備の復旧を確認し、非常復旧スイッチを押せ。」



A-a

B-2 非常復旧スイッチを押す

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除されます。

ただし、感知器が動作している間は非常放送は復旧しません。

非常復旧



緊急放送のしかた

■緊急放送とは

本機では、地震、停電、ガス漏れ、防犯事故など緊急事態のとき、非常放送に続いて2番目の優先順位で緊急放送ができます。

●3つの緊急放送スイッチによるワンタッチ放送

- ・操作部にある3つの緊急放送スイッチで、業務放送中でもワンタッチで優先して放送ができます。
- ・3つの緊急放送スイッチは、後押し優先で作動します。

●外部機器からの制御による放送

- ・外部機器（外部センサーなど）からの起動で、放送ができます。

●内蔵の緊急メッセージの再生放送

- ・内蔵したメッセージを3つの緊急放送スイッチ、または外部制御入力に割り付けることにより、再生して放送ができます。

●停電時の緊急放送

- ・非常放送とは別に、緊急業務放送用として非常電源ユニット（WP-570B）を接続することにより、停電時の緊急放送ができます。

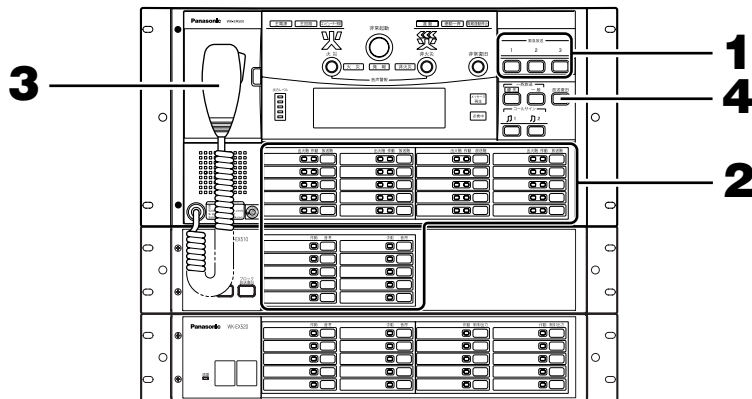


重要

- 外部機器からの制御による緊急放送や、緊急メッセージ再生を行うためには、あらかじめ工事と設定が必要です。
- 放送場所の設定、音源機器の接続状態、メッセージ再生の登録などを販売店（工事店）にご確認ください。

■緊急放送スイッチによる放送

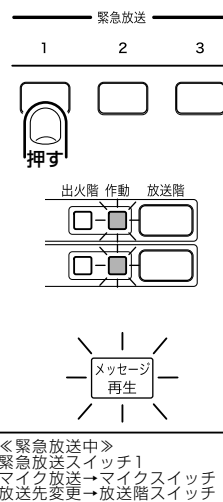
緊急放送スイッチに、放送先、メッセージが登録されている前提での操作手順です。



1 緊急放送スイッチを押す

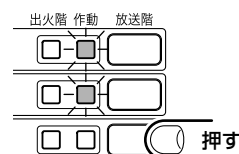
登録された放送先の階別作動表示灯が点灯し、メッセージが放送されます。
緊急放送中に非常起動が入力されると、非常放送が優先して放送されます。

メッセージ再生表示灯が点灯します。
メッセージの再生は1回と繰り返しの設定になります。



2 放送先を追加するとき、放送階選択スイッチを押す

放送階の追加ができます。
※一斉放送するときには、優先一斉または一般一斉スイッチを押します。



3 状況に応じて、本体マイクで放送する（マイク放送優先）

マイクスイッチを離すと、メッセージ放送が途中であればメッセージ放送に戻ります。



4 放送復旧スイッチを押す

緊急放送が始まる前の状態に復旧します。

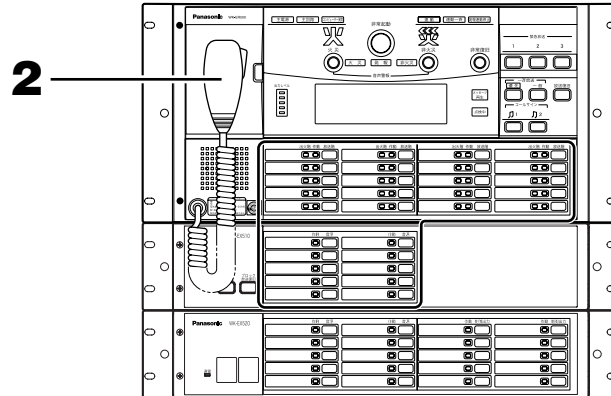


- 緊急放送スイッチは、後押し優先で作動します。あとから押した緊急放送スイッチに登録された放送が、すでに行われている放送を中断して放送します。

緊急放送のしかた

■外部制御入力による緊急放送

外部制御入力の接点に、緊急放送として放送先、メッセージが登録されている前提での操作手順です。

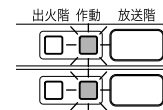


操作

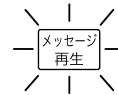
1 外部機器（センサーなど）が作動したとき

登録された放送先の階別作動表示灯が点灯し、メッセージが放送されます。

メッセージ再生表示灯が点灯します。



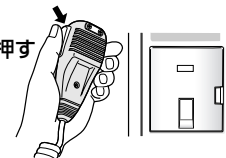
《緊急放送中》
外部制御1
マイク放送→マイクスイッチ



2 状況に応じて、本体マイクで放送する（マイク放送優先）

マイクスイッチを離すと、メッセージ放送が途中であればメッセージ放送に戻ります。

マイク
スイッチを押す



3 外部機器が停止したとき

緊急放送が始まる前の状態に戻ります。

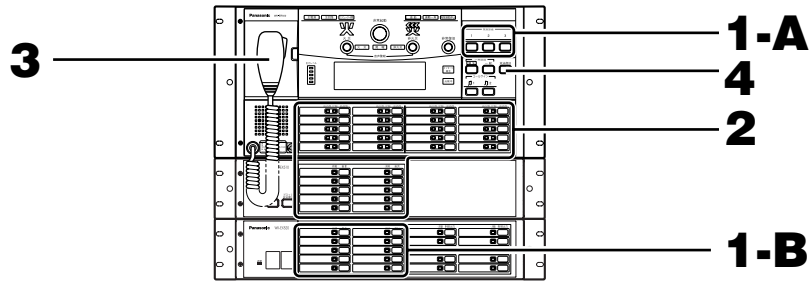
■停電時の緊急放送



●この機能を使用するには、緊急／業務放送用として非常電源ユニットの接続が必要です。

1-Aは、緊急放送スイッチに、放送先とメッセージが登録されている前提での操作手順です。

1-Bは、緊急外部制御入力で、放送先と内蔵音源を登録した前提での操作手順です。



操作

1-A 緊急放送スイッチを押す

緊急放送

1 2 3

押す

1-B 外部機器（センサーなど）が起動して登録された内蔵音源を再生

作動 業務選択

登録された放送先の階別作動表示灯が点灯し、メッセージまたは内蔵音源が放送されます。
メッセージ再生表示灯が点灯します。

出火階 作動 放送階

1-Aのとき

《緊急放送中》
緊急放送スイッチ1
マイク放送→マイクスイッチ
放送先変更→放送階スイッチ

メッセージ再生

1-Bのとき

《緊急放送中》
外部制御1
マイク放送→マイクスイッチ

2 放送先を追加するとき、放送階選択スイッチを押す
放送階の追加ができます。
※一斉放送するときには、優先一斉放送または一般一斉放送スイッチを押します。最大音量で放送されます。

出火階 作動 放送階

押す

1-Bのとき

放送先の追加はできません

3 状況に応じて、本体マイクで放送する（マイク放送優先）
マイクスイッチを離すと、メッセージ放送が途中であればメッセージ放送に戻ります。（内蔵音源の放送も同じ動作です。）

マイクスイッチを押す

4 放送復旧スイッチを押す

放送復旧

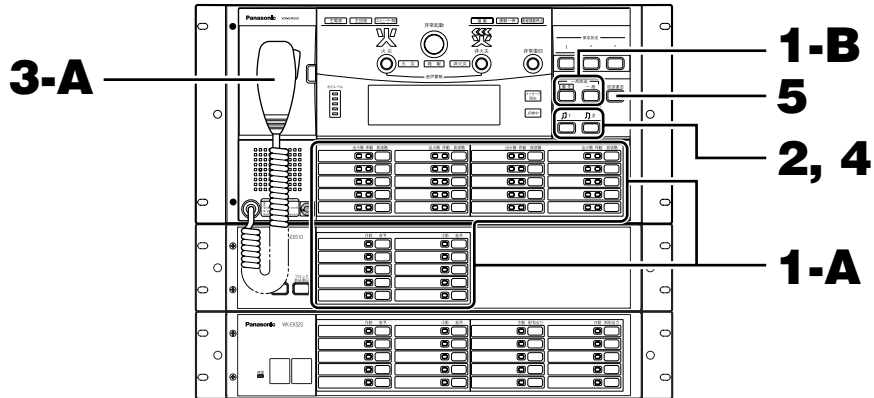
押す

停電状態に戻ります

5 外部機器が停止したとき

業務放送のしかた

■非常操作ユニットからの放送

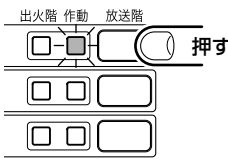


操作

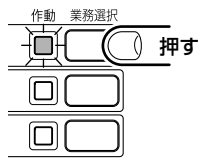
1-A 個別に放送するとき

放送したい場所の放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押す
階別作動表示灯、作動表示灯が点灯します。

放送階選択スイッチ



業務選択スイッチ



液晶画面

《業務放送中》
本体

1-B 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



最大音量で放送されます。
アッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送できます。



アッテネーター（音量調整器）で調整された音量で放送されます。
OFFのときは放送されません。

業務選択スイッチのみに登録された場所には放送されません。

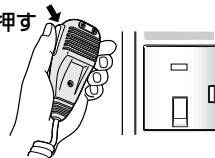
2 コールサインスイッチ1または2を押す

お買い上げ時の設定はコールサインスイッチ1は「上り4音」、コールサインスイッチ2は「下り4音」に設定されています。



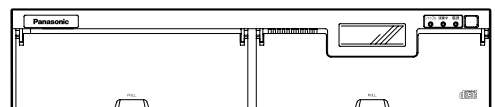
3-A 本体マイクで放送する

マイクスイッチを押す



3-B 外部の音源機器など（ライン1に接続されている機器）から放送する

外部の音源機器を再生状態にする



4 放送終了後コールサインスイッチ1または2を押す



5 放送復旧スイッチを押す

放送した場所の選択が解除され、階別作動表示灯、作動表示灯が消灯します。

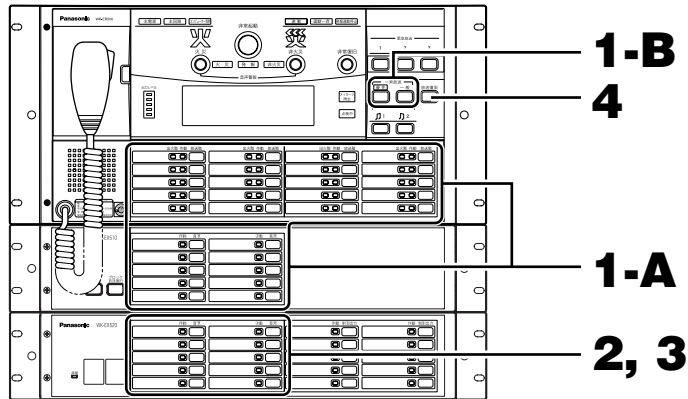


■内蔵メッセージの放送

内蔵音源再生機能を利用して本機に内蔵されたメッセージ音声を利用した業務放送について説明します。



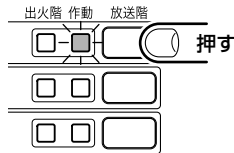
- この機能を使用するには、増設用操作ユニット（WK-EX520）1台を接続して、10個のスイッチをメッセージスイッチに割り当てる設定があらかじめ必要です。設定は販売店（工事店）にご確認ください。



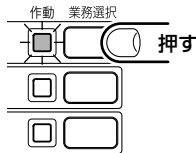
1-A 個別に放送するとき

放送したい場所の放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押す
階別作動表示灯、作動表示灯が点灯します。

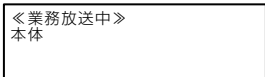
放送階選択スイッチ



業務選択スイッチ



液晶画面



1-B 一斉放送するとき

一斉放送スイッチを押す



最大音量で放送されます。
アッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送できます。

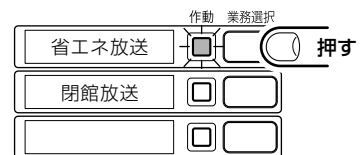


アッテネーター（音量調整器）で調整された音量で放送されます。
OFFのときは放送されません。

業務選択スイッチのみに登録された場所には放送されません。

2 放送するメッセージのスイッチを押す

メッセージ再生用に設定された増設用操作ユニットの業務選択スイッチ（メッセージスイッチ）を押します。
作動表示灯が点灯します。



放送されます

メッセージ再生表示灯が点灯し、設定された回数（1回または繰り返し）でメッセージが放送されます。

3 再度、該当するメッセージのスイッチを押す

作動表示灯が消灯し、メッセージの放送が停止します。

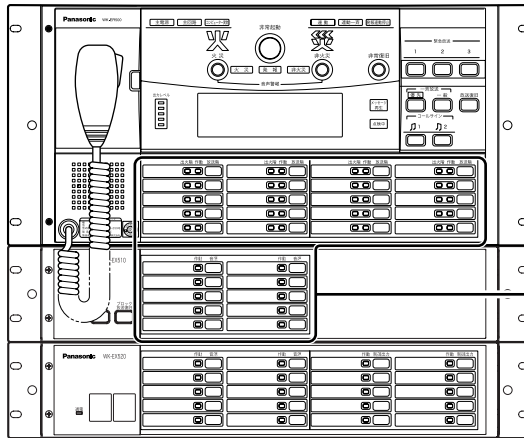
4 放送終了後、放送復旧スイッチを押す

放送階選択スイッチの階別作動表示灯、業務放送先用の業務選択スイッチの作動表示灯が消えます。



■外部制御入力による放送

外部制御入力の接点に放送先とメッセージが登録されている前提での操作手順です。

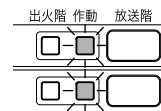


1, 2

操作

1 外部機器（例えばプログラムタイマー）が作動したとき

登録された放送先の階別作動表示灯が点灯します。



《業務放送中》
外部制御

2 外部機器からの制御入力が解除されると、通常状態に戻ります

●チャイム／ページング／BGMの放送について

本機のチャイム放送、ページング放送、BGM放送を実行中は液晶画面に放送の種類が表示されます。ただし、複数の放送が実行されると、画面にはより高い優先順位の放送が表示されます。

1) チャイム放送の場合

チャイム制御入力に制御信号が入力されると、右の画面が表示され、チャイム音声が発送されます。

《業務放送中》
チャイム

2) 電話機などからによるページング放送の場合

ページング制御入力に制御信号が入力されると、右の画面が表示され、ページング音声が発送されます。

《業務放送中》
ページング

3) BGM放送の場合

BGM制御入力に制御信号が入力されると、右の画面が表示され、BGM音声が発送されます。

ただしBGM制御機能により、ほかの音声放送が起動した場合、液晶画面はほかの音声起動の表示に切り換わり、BGM音声はミキシングされて放送されます。

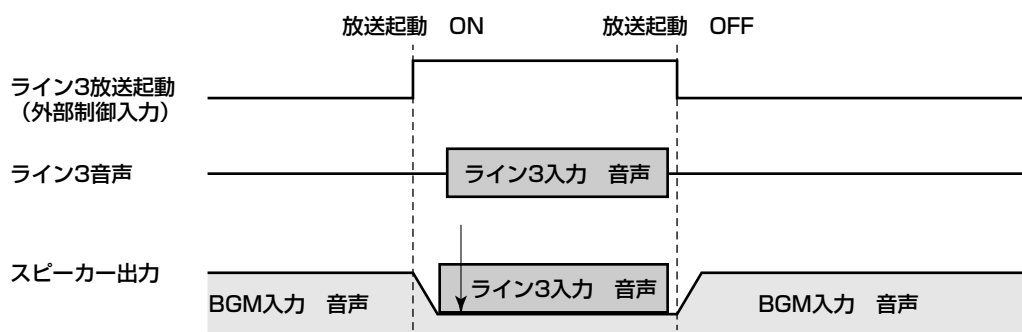
《業務放送中》
BGM

■BGM放送について

BGM放送とほかの業務放送の関係を説明します。

- ・ BGM入力の音声はほかの入力の音声（本体マイク、ライン1～4、チャイムなど）とミキシングされて放送されます。
- ・ BGM放送が起動した状態でほかの放送が開始されると、BGMの音量は下げて（ミュート）放送されます。またミュートの量は、内部のボリューム調整で設定されます。

<ミキシング動作の例>



ミュート：ミュート量は本機内部であらかじめ調整されています。
出荷状態では、BGM音声はカットされる設定になっています。

■汎用出力スイッチ機能について

非常放送中、緊急放送中はこの機能は無効になります。

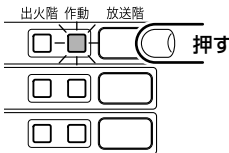
- ・汎用出力機能を利用して増設用操作ユニット（WK-EX520）の10個のスイッチを汎用出力スイッチに使用することができます。これにより本機から外部機器を制御できます。
- ・この機能を使用することで外部機器の音源を本機で操作することも可能になります。
- ・この機能が利用できる増設用操作ユニットは1台のみで、内蔵音源再生機能を設定したときは同じ増設用操作ユニット（WK-EX520）になります。

操作

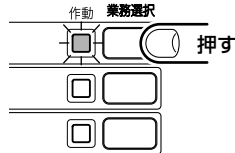
1-A 個別に放送するとき

放送したい場所の放送階選択スイッチまたは業務選択スイッチを押す
階別作動表示灯または作動表示灯が点灯します。

放送階選択スイッチ



業務選択スイッチ



液晶画面

≪業務放送中≫
本体

1-B 一齐放送するとき

一齐放送スイッチを押す



最大音量で放送されます。

アッテネーター（音量調整器）がOFFでも放送
できます。



アッテネーター（音量調整器）で調整された音
量で放送されます。

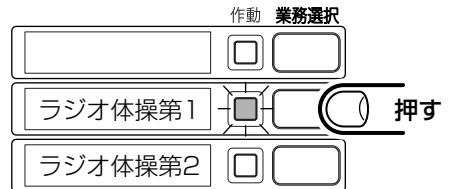
OFFのときは放送されません。

業務放送スイッチのみに登録された場所には放
送されません。

2 放送する音源の外部機器が設定されたスイッチを押す

機能が割り当てられた増設用操作ユニットの業務選択スイッチを
押します。

作動表示灯が点灯し、汎用出力端子に割り当てられた外部の機器
が制御され、作動します。

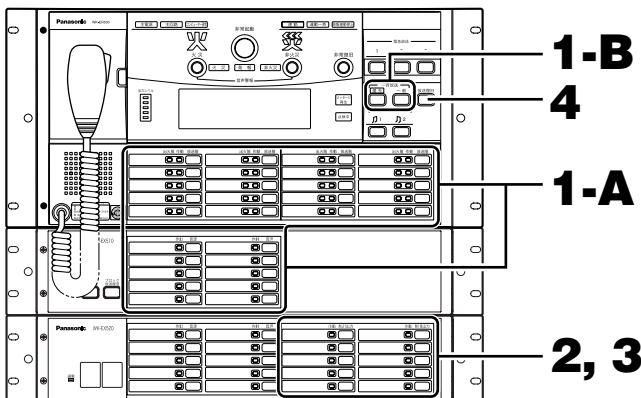


放送されます

3 再度スイッチを押す

外部機器の制御が解除され（停止）、作動表
示灯が消灯します。

※設定により非常放送、緊急放送起動中も汎
用出力制御を動作させることができます。



4 放送終了後、放送復旧スイッチを押す

放送階選択スイッチの階別作動
表示灯、業務選択スイッチの作
動表示灯が消えます。



■各放送の優先順位について

放送の優先順位は、非常放送→緊急放送→業務放送となり、非常放送がすべての放送に対して最優先になります。

●各放送の中での優先順位設定について

- ・ 緊急放送 : 緊急放送スイッチ1、2、3による放送は、外部制御起動の放送より優先されます。外部制御起動間で優先順位設定ができます。
- ・ 業務放送 : 放送モード間で優先順位設定ができます。
BGM放送は最下位（17位）に固定されています。
BGM放送中にほかの放送（例えばマイク放送）が開始された場合、BGMの音は小さくなりマイクの音とミキシングされます。

	放送モード	優先順位度
緊急放送	緊急放送スイッチ1、2、3	後押し優先
	外部制御起動	1～16位に設定可能
業務放送	本体（非常操作ユニット）	1～16位に設定可能
	非常リモコン	
	マルチリモコンマイク	
	一般リモコン（リモコンマイク）	
	チャイム	
	外部制御入力	
	拡張外部制御入力	
	BGM放送	17位に固定



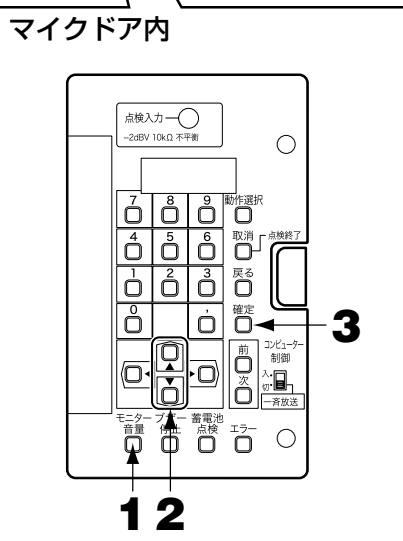
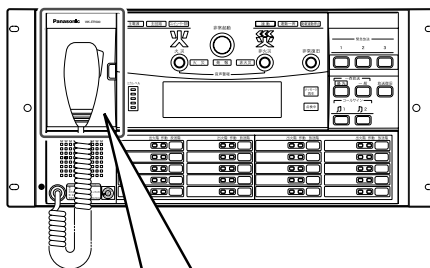
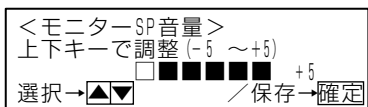
- お買い上げ時の設定は、BGM（第17位）以外の起動入力がすべて第9位に設定されています。

モニター音量の調整

モニタースピーカーの音量を調整します。

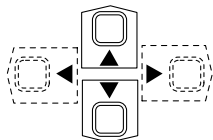
1. マイクドア内のモニター音量スイッチを押す

音量調整画面が液晶に表示されます。



2. カーソルキー ▲ ▼を押して音量を調整する

表示されている■の数が増減します。



- 音量調整を中止するときは、[戻る] スイッチを押します。
- 10秒間操作しないと、音量調整を中止して通常画面に戻ります。

3. 確定キーを押す

音量が確定します。



- 非常放送時は設定に関係なく最大音量になります。

相互通話のしかた

放送が行われていないときは、本体マイクを使って本機と非常リモコン間で相互通話（インターホン）ができます。

●相互通話のしかた

1. 放送が行われていないことを液晶画面で確認する

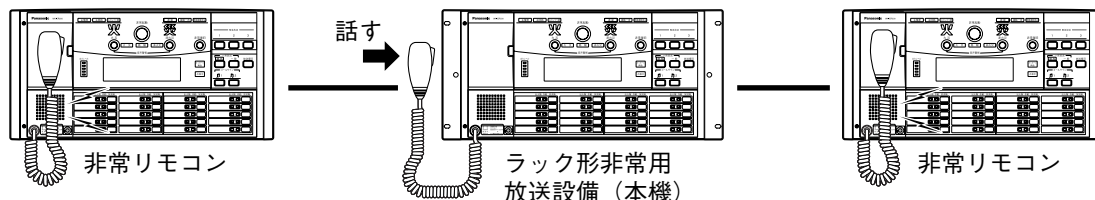
放送が行われていないとき、液晶画面には何も表示されません。



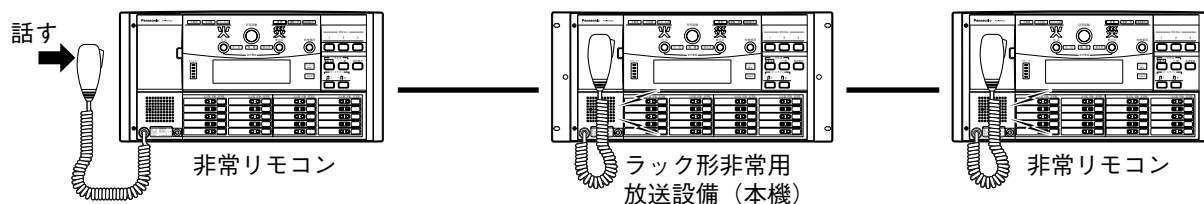
※放送階選択スイッチが押され、液晶画面に表示された状態では、マイク音声は選択された階へ放送されます。（通常の放送となります）

2. 本体マイクを取り、マイクスイッチを押しながら話す

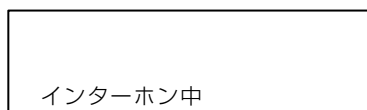
・本機の本体マイクからの音声は、接続されたすべての非常リモコンのモニタースピーカーから放送されます



・非常リモコンの本体マイクからの音声は、本機と接続したほかの非常リモコンのモニタースピーカーから放送されます



●相互通話中は、液晶画面に「インターホン中」と表示されます。

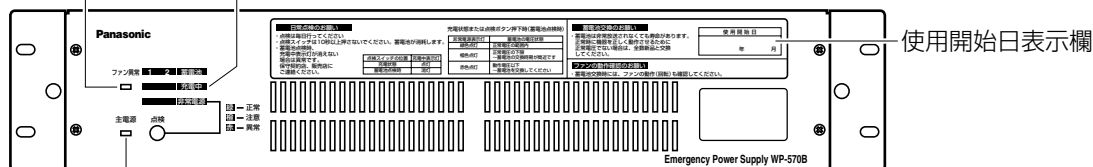


4. 異常が発見された非常電源ユニットを確認する

① 主電源表示灯、充電中表示灯、ファン異常表示灯を確認する

使用開始日から4年を過ぎていないか確認する。

ファン異常表示灯 充電中表示灯



主電源表示灯

正常状態……主電源表示灯、充電中表示灯は点灯、ファン異常表示灯は消灯



- 接続された蓄電池が1個だけのとき、もう一方の充電中表示灯は点灯しません。個数について、あらかじめ販売店（工事店）にご確認ください。

② 点検スイッチを押しながら非常電源表示灯を確認する

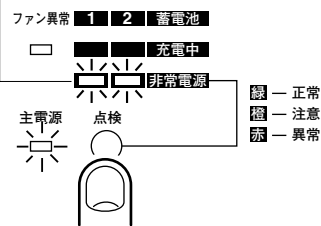
充電中表示灯は消灯します。

緑：正常電圧の範囲内

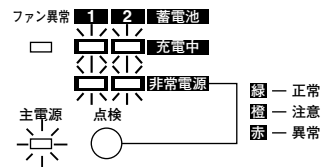
橙：正常電圧の下限（蓄電池の交換時期が間近です。）

赤：動作電圧以下（蓄電池を交換してください。）

非常電源表示灯



- 押している時間が短いと正しい点検ができませんので、5秒以上は押してください。
- 点検時は蓄電池を消耗します。点検スイッチは10秒を超えて押さないでください。



③ 点検スイッチを放し、充電中表示灯が点灯するか確認する



- 業務放送用や緊急放送用の非常電源ユニットの確認は、自動点検（→46ページ）で行われます。非常用放送設備本体の蓄電池点検スイッチによる手動点検では、非常放送用のみの確認になります。
- 手動点検が実行されたあと、24時間おきに自動点検を行います。

●蓄電池の交換について

⚠ 注意

蓄電池の交換は、販売店か
保守契約店に依頼する



感電の原因になります。

- 蓄電池の寿命は、使用するしないにかかわらず4年間です。これを過ぎると、たとえ点検時に正常電圧が表示されても全数交換が必要です。
- 交換した蓄電池の取扱いは注意してください。
- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



Ni-Cd

必要なとき

自動点検

本体には、コンピューターによる自動点検機能が組み込まれています。点検の結果は、コンピューター内部に履歴として記録され、保守点検で活用されます。

点検項目や点検内容、また異常があった場合の表示方法を下表に示します。

異常があるときは、販売店または保守契約店に連絡してください。

点検項目	点検内容	点検方法	異常の通知		
			ブザー音	異常表示灯	液晶表示
コンピューター制御異常	異常監視	常時	○	コンピューター異常表示灯点灯	—
外部機器異常	異常監視	常時	—	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 外部機器異常 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
スピーカー回線短絡異常	回線短絡監視	常時／手動	—	階別作動表示灯点滅	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> SP回線短絡 SP 1, 2, 3, 4, 25, 126, 340 改画面→前次 / 異常復旧→取消 </div>
EMG24 V ブレイク異常	EMG24 V 短絡監視	常時	○	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> EMG24V ブレイク(一斉) 異常 増設出力制御No 1: 1, 2 改画面→前次 / 異常復旧→取消 </div>
					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> EMG24V ブレイク(個別) 異常 接点 1, 2, 3, 4, 5, 6 改画面→前次 / 異常復旧→取消 </div>
非常リモコン通信回線	非常リモコンとの通信監視	常時	○	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 通信異常 非常RM 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
マルチリモコンマイク通信回線異常	マルチリモコンとの通信監視	常時	—	—	マルチリモコンマイクの液晶画面に「エラーハッセイ(ツウシンエラー)」, または「モウイチド ソウサシテクダサイ」と表示される。
増設用出力制御ユニット状態監視	増設用出力制御ユニットとの通信監視	常時	○	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 通信異常 増設出力制御 1, 2, 3, 4, 5, 6 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 通信異常 拡張/非常制御 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
本体マイク異常	本体マイクの断線監視	常時	—	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 本体マイク異常 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 非常RM 1マイク異常 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>

必要なとき

点検項目	点検内容	点検方法	異常の通知		
			ブザー音	異常表示灯	液晶表示
主電源	主電源電圧の監視	常時	—	主電源表示灯消灯	—
蓄電池異常	蓄電池の消耗の監視 (蓄電池異常)	24時間ごと/手動	○	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 非常放送用蓄電池異常 本体 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 緊急/業務放送用蓄電池異常 本体 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
主回路	主回路電圧の監視	常時	—	主回路表示灯赤色点灯	—
増設用操作ユニット/入力マトリクスユニット状態監視	増設用操作ユニット/入力マトリクスユニットの異常監視	常時	○	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 通信異常 増設用操作 1, 2, 3, 4, 5, 6 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 通信異常 マトリクス 1, 2, 3, 4, 5, 6 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
リモコン電源異常	電源異常監視	常時	○ (非常リモコンのみ)	—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 非常RM用ヒューズ1断 入出力制御ユニット 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> マルチRM用電源1異常 入出力制御ユニット 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>
					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <異常詳細表示> 一般RM用電源異常 入出力制御ユニット 改画面→前次 / 表示終了→戻る </div>



- ブザー音は、マイクドア内のブザー停止スイッチを押すと止まります。
- 異常があるときは、販売店または保守契約店に連絡してください。

保守点検

非常用放送設備は、消防法により定期的に総合的な保守点検を行うことが義務付けられています。保守点検では、非常放送、緊急放送、業務放送が正しく動作するかを総合的に点検します。ここでは、点検の概要について説明します。詳細は工事説明書 設置工事編をお読みください。
また、保守点検は販売店または保守契約店に依頼してください。

■点検の種類について

点検モードには、次の3つがあります。

手動点検：EMG24 Vブレイク信号の出力の有無、スピーカー回線短絡の有無を個別に確認します。

運用点検：通常の運用に近い状態で、非常放送、緊急放送、業務放送が正しく動作するか確認します。

点検用音源の有無／スピーカー回線をOFF／EMG24 Vブレイク制御の停止などの機能により、周囲のシステムへの影響を少なくして点検できます。

操作練習：外部からの起動入力を液晶画面設定で疑似動作させながら、非常放送、緊急放送の操作方法を練習します。

※実際の火災報知設備の発報と区別できませんので、注意してください。

■点検のしかた

1. マイクドア内の動作選択スイッチを2回押して、〈点検モード〉注意画面を表示する

注意メッセージが表示されます。

2. 確定スイッチを押す

〈点検モード〉画面が表示されます。

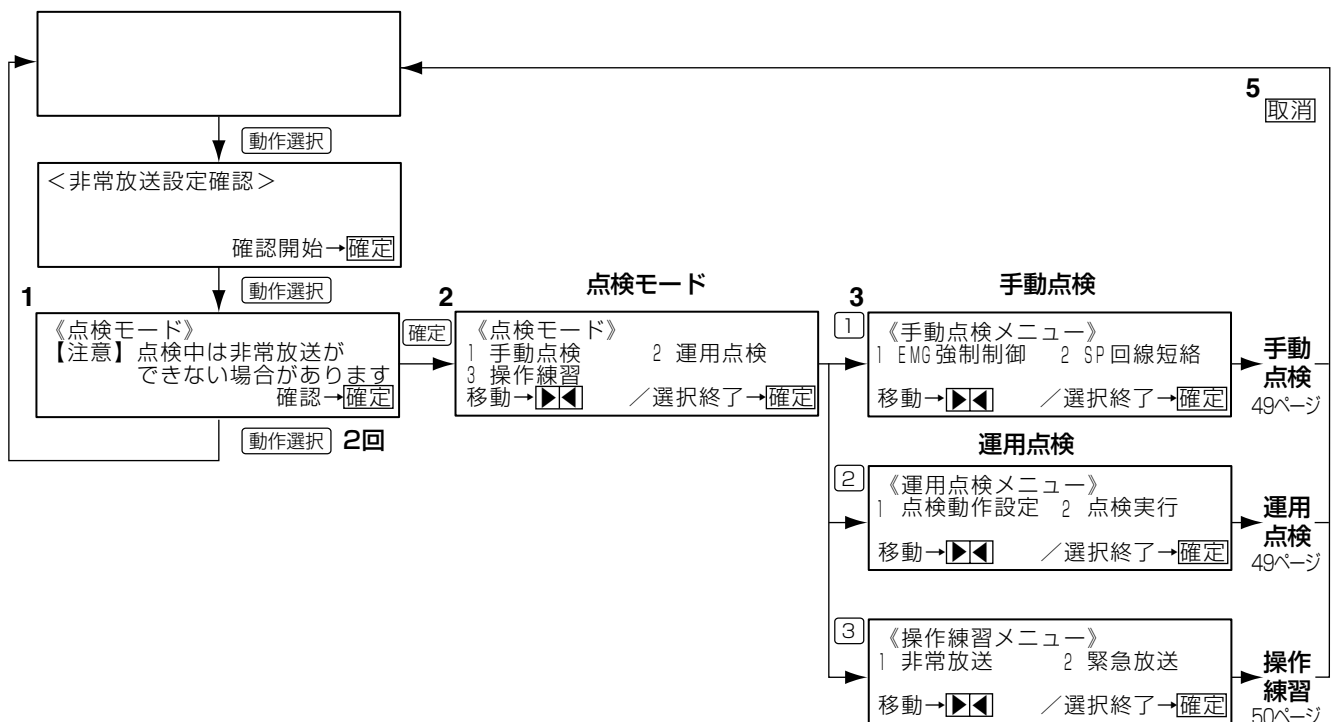
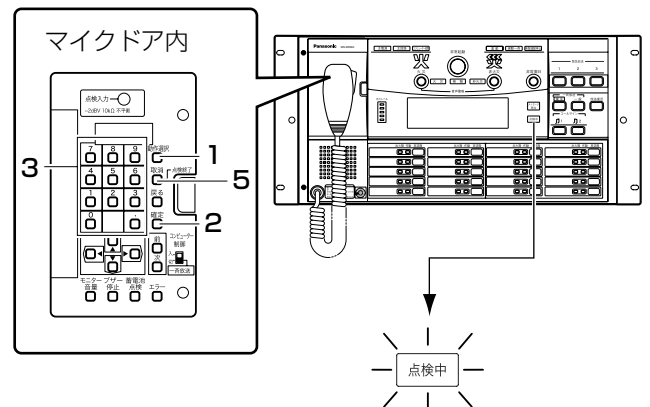
3. テンキーで点検項目を選択する

4. 必要な画面を表示して点検を実行する

点検中表示灯が点灯します。点検を中止する場合は、取消スイッチを押します。

5. 点検後、マイクドア内の取消スイッチを押す

通常画面に戻ります。



●手動点検

手動点検では、EMG24 Vブレイク信号の動作確認およびSP（スピーカー）回線短絡検出ができます。個別に系統を指定できますので、点検対象を必要な系統に絞ることができます。

《EMG24 Vブレイク》

- 全接点 : 増設用出力制御ユニット（WU-ER551, ER552）および非常制御出力ユニット（WU-EM552）の全EMG24 Vブレイク信号を一斉に点検します。
- 一斉 : 標準で増設用出力制御ユニット（WU-ER551, ER552）にある2系統のEMG24 Vブレイク信号を点検します。
- 個別接点全数 : 非常制御出力ユニット（WU-EM552）の全EMG24 Vブレイク信号を一斉に点検します。
- 個別接点指定 : 非常制御出力ユニット（WU-EM552）のEMG24 Vブレイク信号を個別に指定して点検します。

《SP回線短絡検出》

- 全SP : 全スピーカー回線を短絡検出します。
- 個別SP : スピーカー回線を個別に指定して短絡検出します。

※点検方法の詳細は工事説明書 設置工事編をお読みください。

●運用点検

運用点検は、通常運用に近い状態で点検できます。点検時に周辺システムへの影響を少なくするため、スピーカー一回線制御のOFF機能などが設けられています。

《点検動作設定》

- 点検用音源選択 : 無し／点検入力／点検音源1～2のうちどの音源を点検中に放送するかを選択します。
- SP回線制御 : 通常／OFF
点検時、スピーカー回線を通常どおり動作させるか、回線をOFFにするかを選択します。
- EMG24 Vブレイク制御 : 通常動作／常時ブレイク／常時24 V
点検時、制御を通常動作で行うか、ブレイク状態で固定するか、24 V出力固定でブレイク制御を停止するかを設定します。
- 汎用出力制御 : 通常／無効
点検時、汎用出力制御を通常動作させるか、無効にするかを設定します。
- 状態出力制御 : 通常／無効
点検時、状態出力制御を通常動作させるか、無効にするかを設定します。

※点検方法の詳細は工事説明書 設置工事編をお読みください。

保守点検

●操作練習

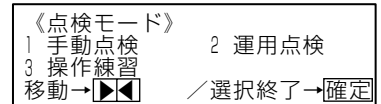
操作練習は、スピーカーからの放送を止めて非常放送、緊急放送を実際の操作に合わせて練習ができるモードです。外部からの信号入力（火災報知設備からの信号など）を液晶画面で疑似入力して、操作練習をします。



●操作練習モードでは、本当の火災または緊急事態なのか、疑似入力によるものかを区別できません。十分に注意して使用してください。

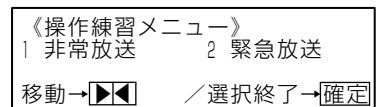
1. <点検モード>画面で、「操作練習」を選択する

カーソルキー▶◀で選択して、確定スイッチを押します。



2. 練習する放送を、「非常放送」と「緊急放送」から選択する

カーソルキー▶◀で選択して、確定スイッチを押します。



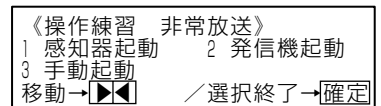
●非常放送の練習を行う場合

3. 起動方式を選択する

非常放送の起動方式を、カーソルキー▶◀で「感知器起動」*1、「発信機起動」*2、「手動起動」から選択して、確定スイッチを押します。

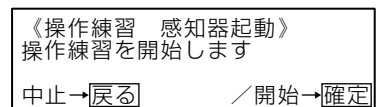
操作練習開始確認画面が表示されます。

画面は「感知器起動」の場合です。



4. 確定スイッチを押す

点検が開始されます。



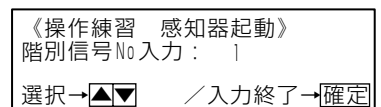
A. 「感知器起動」、「発信機起動」の場合

テンキースイッチで階別信号の番号を入力して確定スイッチを押します。

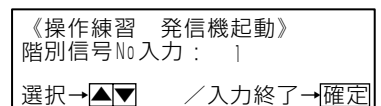
モニタースピーカーから非常放送のメッセージが放送されます。

練習を開始します。

「感知器起動」の場合



「発信機起動」の場合



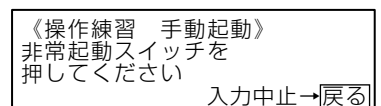
B. 「手動起動」の場合

操作パネルの非常起動スイッチを押す

放送階選択スイッチを押す

音声指示と画面の指示にしたがって非常放送の練習をします。

「手動起動」の場合

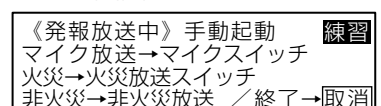


5. 操作練習の終了

マイクドア内の取消スイッチを押す

非常放送の操作練習を終了します。

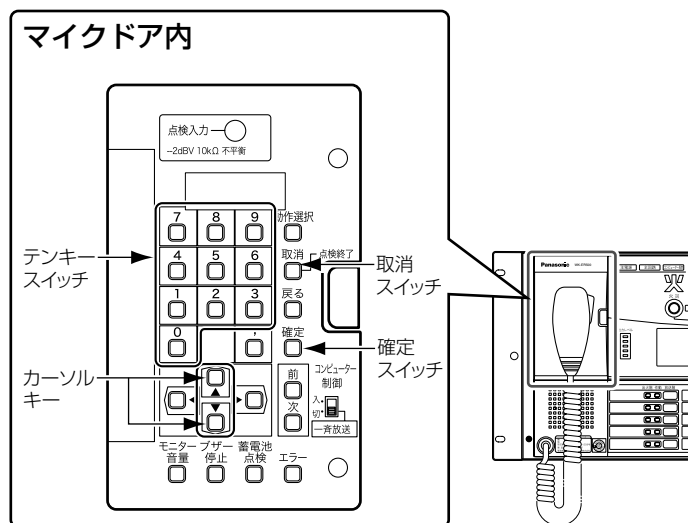
放送階選択スイッチを押した
あとの画面



※1 感知器起動…火災報知設備からの階別信号入力（出火場所を特定する信号）により、非常放送へ移行する起動方法です。

※2 発信機起動…非常電話や階別信号+火災確認信号により、非常放送へ移行する起動方法です。

●緊急放送の練習を行う場合



3. 起動方式を選択する

緊急放送の起動方式を、カーソルキー▶◀で「緊急放送SW」、「緊急外部制御」※1、「緊急拡張外部」※2から選択します。

操作練習開始確認画面が表示されます。

4. 確定スイッチを押す

点検が開始されます。

A. 「緊急放送SW」の場合

操作パネルの緊急起動スイッチ1～3を押す

緊急放送の練習を開始します。

B. 「緊急外部制御」、「緊急拡張外部」の場合

外部制御入力の番号（外部からの緊急起動の接点番号）を指定する

テンキースイッチで番号を入力して、確定スイッチを押します。

モニタースピーカーから設定された緊急放送のメッセージが放送されます。

練習を開始します。

5. 操作練習の終了

マイクドア内の取消スイッチを押す

緊急放送の操作練習を終了します。

《操作練習 緊急放送》
1 緊急放送SW 2 緊急外部制御
3 緊急拡張外部
移動→▶◀ / 選択終了→確定

《操作練習 緊急放送》
操作練習を開始します
中止→戻る / 開始→確定

《操作練習 緊急放送》
緊急放送スイッチ(1-3)を
押してください

《操作練習 緊急放送》
緊急外部制御接点No 1
選択→▲▼ / 入力終了→確定

「緊急拡張外部」の場合

《操作練習 緊急放送》
緊急拡張外部制御接点No 1
選択→▲▼ / 入力終了→確定

《緊急放送中》 練習
外部制御1
マイク放送→マイクスイッチ
終了→取消

※1 緊急外部制御…入出力制御ユニットの外部制御入力を緊急外部制御へ割り当てた場合の起動方法です。自動で緊急放送を行うために、外部のセンサーなどへ接続されています。

※2 緊急拡張外部…拡張制御ユニット（WU-EX590）または非常制御出力ユニット（WU-EM552）の外部制御入力を緊急外部制御へ割り当てた場合の起動方法です。

非常放送用語の説明

連動一斉

火災感知器の作動により、自動的に全館一斉非常放送できる状態です。

連動

火災感知器の作動により、自動的に出火階と連動階に非常放送できる状態です。

発報連動停止

火災感知器が作動しても発報放送をせず、代わりにモニタースピーカーから火災音信号を鳴らす状態です。

火災音信号

発報連動停止状態で感知器が作動したとき、モニタースピーカーから鳴るピーピーピー音です。

階別信号

どの階で感知器・発信機・非常電話などが作動したかを知らせる信号です。火災報知設備から本体に供給されます。

第一報

感知器・発信機・非常電話などが作動して、はじめに火災報知設備から本体に供給される信号です。その次の信号（第二報）を本機が受け取った場合、火災が確認されたと判断します（火災確認信号の受信と同等）。

火災確認信号

火災を確認したことを知らせる信号です。感知器からの第一報のあと（または同時）に発信機・非常電話などが作動したとき、火災報知設備から本機に供給されます。第一報として発信機や非常電話が作動したときは、階別信号とほぼ同時にこの信号が供給されます。

第1タイマータイムアップ（火災放送移行タイマー）

階別信号受信後に、設定した時間（2～5分）が経過すると、自動的に火災放送に移行することです。事前に販売店（工事店）に設定時間をご確認ください。設定時間を5分以上にする場合は、管轄消防署の確認が必要です。

第2タイマータイムアップ（一斉火災放送移行タイマー）

火災放送が出火階、連動階に放送開始されたあと、設定した時間が経過すると、自動的に全館への一斉火災放送に移行することです。設定時間はおおむね数分（非常用放送設備の場合は2～5分）としています。設定時間を5分以上にする場合は、管轄消防署の確認が必要です。

第2タイマーを0分に設定したときは、ただちに一斉火災放送に移行します。

第2タイマーをOFFに設定したときは、一斉火災放送に移行しません。

第2タイマータイムアップによる一斉火災放送中は、放送階の解除はできません。事前に販売店（工事店）に設定時間をご確認ください。

連動／個別

手動で非常起動したあとに放送階を選択した場合、設定により次の2通りの動作になります。

連動：スイッチを押した階と連動階が選択される

個別：スイッチを押した階のみが選択される

3線式配線と音量調整器*

3線式スピーカー配線の場合、業務放送などは音量調整器で設定（OFF／1／2／3など）した音量で放送されますが、非常放送では最大音量で放送されます。非常放送を行う設備では、通常3線式で配線されます。

* スピーカー音量調整器の当社名称は、"アッテネーター"（スピーカー取り付けタイプ）または"ボリュームコントローラー"（壁埋め込み・ボックス取り付けタイプ）です。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
本機から放送が できない	▶ ● 放送階選択スイッチは押されていますか？ 放送先を選択すると、該当する階別作動表示灯が緑色に点灯します。	13
	▶ ● 優先度の高いほかの周辺機器から放送されていませんか？ 本機よりも優先度が高く設定された放送機器や音源機器から放送している場合、本機からの放送はできません。液晶画面にシステムで放送中の機器名称が表示されます。 例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">《業務放送中》 マルチRM</div>	41
接続した音源機器から 放送できない	▶ ● 上記「本機から放送ができない」をご参照ください。	—
	▶ ● 音源機器の電源は入っていますか？ 音源機器の電源を確認してください。	—
	▶ ● 音源機器の再生ボタンは押しましたか？ 再生ボタンを押して再生を開始してください。システム構成によっては、プログラムコントローラーなど、時刻に同期して自動再生される場合もあります。	—
	▶ ● CDやテープなどの再生メディアは挿入されていますか？ 再生メディアを挿入してください。	—
モニタースピーカーからの音が小さい (大きい)	▶ ● モニタースピーカーの音量は適切に調整されていますか？ モニタースピーカーの音量は、本体操作部のマイクドア内にあるモニター音量スイッチで調整できます。	42

必要なとき

仕様

■ラック形非常用放送設備（スタンダードWL-8000、ロングWL-8500）

●基本仕様 [] 内は、WL-8500

電源	AC100 V 50 Hz/60 Hz
消費電流	DC24 V 1.47 A (WU-L62より供給)
使用温度範囲	0℃～+40℃
寸法	幅564 mm 高さ1465 mm 奥行478 mm [幅564 mm 高さ2000 mm 奥行478 mm]
ユニット収納スペース	15 U (ラック本体29 U : 1 U=44.45 mm) [27 U (ラック本体41 U : 1 U=44.45 mm)]
質量	約82 kg [約95 kg]
仕上げ	本体 : AVライトグレー塗装鋼板 (マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色) 基台 : 黒色塗装 パネル : AVライトグレー塗装鋼板 (マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色)

■非常操作ユニットWK-ER500

●基本仕様

電源 (WU-L62より供給)	DC24 V 370 mA
寸法	幅480 mm 高さ221 mm 奥行120 mm
質量	約5 kg
仕上げ	パネル : AVライトグレー塗装 (マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色)
自火報連動モード	連動 / 連動一斉
発報連動モード	発報連動 / 発報連動停止
発報火災切換	発報 / 火災
音声警報音 (音声合成音)	第1シグナル音、第2シグナル音、発報放送音声、火災放送音声、 非火災放送音声 階情報 : 67の階情報を内蔵、階情報の増設可能 (別売品) 日本語 / 日本語 + 英語切り換え
非常放送制御	操作 : 非常起動スイッチ、非常復旧スイッチ、火災放送スイッチ、 非火災放送スイッチ 表示灯 : 主電源表示 (緑)、主回路表示 (緑)、連動表示 (赤)、連動一斉表示 (赤)、発報連動停止表示 (赤)、発報放送表示 (橙)、火災放送表示 (赤)、非火災放送表示 (緑)、火災表示 (赤) 出力レベル (5ポイントLED) コンピューター異常表示 (赤)、メッセージ再生表示 (緑)、点検中 表示 (緑)
選局制御	操作 : 放送階選択スイッチ、緊急放送スイッチ1、2、3、 優先一斉放送スイッチ、一斉放送スイッチ、放送復旧スイッチ、 コールサインスイッチ1、2 表示灯 : 出火階表示 (赤)、階別作動表示 / 回線短絡表示 (緑)
液晶表示	非常放送操作手順、放送状態、書き込み指示、異常表示 表示仕様 : 15文字 × 4行

マイクドア内	書き込み用キースイッチ、(10キー、カンマキー、カーソルキー、戻るスイッチ、取消スイッチ、確定スイッチ、前スイッチ、次スイッチ)、動作選択スイッチ、エラースイッチ、蓄電池点検スイッチ、ブザー停止スイッチ、モニター音量スイッチ、コンピューター制御入一切スイッチ、点検入力ジャック(ステレオミニジャック)
--------	--

●音声部

周波数特性	ライン系： 50 Hz～15 kHz -2 dB±3 dB マイク系： 100 Hz～10 kHz -2 dB±3 dB
ひずみ率	1 %以下 (1 kHz基準)
非常/業務兼用マイク入力	-58 dBV 600 Ωに適合 不平衡 AGC付 (出荷時-52 dBV)
ライン1/ミキサー入力	-2 dBV 10 kΩ 平衡
ライン2/緊急入力	-2 dBV 10 kΩ 平衡
ライン3	-2 dBV/-65 dB 10 kΩ 平衡
ライン4/ページング入力	-2 dBV 10 kΩ 平衡
BGM入力	-2 dBV 10 kΩ 平衡
チャイム入力	-2 dBV 10 kΩ 平衡
点検入力	-2 dBV 10 kΩ 不平衡 (ステレオミニジャック)
音声出力1、2	0 dBV 600 Ω以上 平衡
モニタースピーカー	出力300 mW 8 Ω (警報および操作音ブザー含む) ハウリング防止機能付

●制御部

マイク制御	CONT、COM (即結端子台) 開放電圧DC 5 V 短絡電流0.5 mA
外部通信	RS-232C用 (パソコン設定支援ソフト対応)

■入出力制御ユニット WU-ER550

●基本仕様

電源 (WU-L62より供給)	DC24 V 270 mA (非常リモコン、マルチリモコンマイク、リモコンマイクへの電源供給分は除く)
寸法	幅480 mm 高さ132 mm 奥行300 mm
質量	約7.8 kg
仕上げ	パネル：AVライトグレイ塗装 (マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色)

●音声部

周波数特性	50 Hz～15 kHz -2 dB±3 dB
ひずみ率	1 %以下 (1 kHz基準)

●非常リモコン接続部 (ねじ式端子台)

電源出力	DC24 V 最大電流3.3 A×2系統、0 V×2系統
制御	EMG、CPU OFF、URG
通信制御	LB+、LB- ×4系統、RSB、RSG
音声入力 (ライン)	-10 dBV 600 Ω 平衡×4系統、(出荷時0 dBV)
音声出力 (モニター)	0 dBV 600 Ω以上 平衡

仕様

●一般リモコン接続部（ねじ式端子台）

電源出力	DC24 V 最大電流300 mA
制御入力	1～10（20に設定可能）、一斉、コールサイン（上、下）、放送制御
音声入力	-10 dBV 600 Ω 平衡×2系統、(出荷時0 dBV)

●マルチリモコン接続部（ねじ式端子台）

電源出力	DC24 V 最大電流1 A
通信制御	LB+、LB- ×4系統、RSB、RSG
音声入力（ライン）	0 dBV 600 Ω 平衡

●外部制御入力接続部（ねじ式端子台）

制御入力	1～10（20に設定可能）、COM×2
BGM制御	CONT、COM
電話ページング	CONT、COM
チャイム制御	CONT、COM

●汎用出力（状態出力）接続部（即結端子台）

制御	1～5リレー接点、制御電圧DC35 V 制御電流500 mA
	6～10、COM、オープンコレクター出力 制御電圧DC35 V 制御電流80 mA
	以下の状態出力に設定可能
	音声警報状態（発報、火災、一斉火災、非火災）、マイク放送中（非常操作、非常リモコン1～8）
	故障状態（マイク異常、外部機器異常、リモコン電源異常、増設ボード異常、通信異常、回線短絡、EMG24 Vブレイク異常、蓄電池異常）
	状態出力（非常放送中、緊急放送中、業務放送中、システム設定中、点検モード中）

●電源制御接続部（ねじ式端子台）

RU+	RU+、COM
	有電圧出力 出力電圧DC24 V 制御電流100 mA
停電起動	停電起動、COM
	開放電圧 30 V 短絡電流0.5 mA

■増設用出力制御ユニット WU-ER552

●基本仕様

電源（WU-L62より供給）	DC24 V 1 A
寸法	幅480 mm 高さ132 mm 奥行300 mm
質量	約8.3 kg
仕上げ	パネル：AVライトグレイ塗装（マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色）
階別信号入力	即結端子台EL1～EL20 開放電圧30 V 短絡電流3 mA
火災確認信号	即結端子台EC、EF 開放電圧30 V 短絡電流3 mA
EB接点	即結端子台EB1、EB2（2系統） 無電圧メイク リレー接点DC50 V 1 A
EMG24 Vブレイク1、2	DC24 V 1端子あたり最大150 mA
スピーカー出力	ねじ式端子台 SP1～SP20（各N、R、C） 1回線あたり最大200 W
スピーカー短絡検出	ヒューズレス（ディップスイッチにより短絡検出感度切り換え）
電力増幅ユニット入力	後面コネクタ PA1～PA4 1入力あたり最大480 W
外部機器異常入力	後面即結端子台 CONT、COM

■電源制御ユニット WU-L62

●基本仕様

電源	AC100 V 50 Hz/60 Hz
消費電力 (注)	約140 W (DC3.6 A出力時)
AC電源出力	AC100 V最大38 A (A系統18 AとB系統20 Aの2系統)
電源リレー作動時間	ON時: A系統 約40 ms、B系統 約80 ms OFF時: A系統 約40 ms、B系統 約130 ms
DC電源出力	DC24 V 最大3.6 A (後面PWR CONTコネクター内)
寸法	幅480 mm 高さ44 mm 奥行き300 mm
質量	約6.4 kg
仕上げ	パネル: AVライトグレー塗装 (マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色)
外部制御	前面ねじ式端子台 PWR CONT、EMG24 Vメイク/ブレイク切り換え、DC24 V入力、 DC24 V出力、0 V、COM×2 PWR CONT トランジスタ入力 耐電圧DC30 V 入力電流 約1 mA EMGメイク トランジスタ入力 耐電圧DC30 V 入力電流 約0.5 mA EMGブレイク トランジスタ入力 耐電圧DC30 V 入力電流 約3 mA DC24 V出力 最大3.6 A
電源コンセント	非常電源用 A、B系統 各1 最大15 A AC電源用 A、B系統 各4 1個あたり15 A 最大38 A
後面コネクター	PWR CONT ×2 (10ピンコネクター)

(注) この表示は電気用品安全法の技術基準に基づくものです。

仕様

●出荷時メッセージ（10ファイル）

番号	音源名	メッセージ内容
1	訓練火災1（約5秒）	ウー（サイレン音5秒程度）
2	訓練火災2（約13秒）	ウー（サイレン音5秒程度） 訓練火災発生！訓練火災発生！落ち着いて避難してください。
3	地震放送（約11秒）	No.6の5音：ただいま地震が発生しました。落ち着いて火の元を確認し、身の安全を確保してください。
4	セキュリティー（約10秒）	防犯警報音*侵入者がいます！侵入者がいます！ご注意ください。
5	停電放送（約11秒）	No.7の4音：ただいま停電が発生しております。原因を調査中ですので、しばらくお待ちください。
6	ガス漏れ（約10秒）	No.8の4音：コールサイン ガス漏れ警報機が作動しました。原因を調査中です。火の始末を行ってください。
7	閉館放送（約23秒）	コールサイン（上り4音） 本日はご来場ありがとうございました。本施設は間もなく閉館致します。またのお越しをお待ちしております。 コールサイン（下り4音）
8	蛍の光（約61秒）	蛍の光（ワンコーラス）
9	省エネ放送（約18秒）	コールサイン（上り4音） 不要な照明を消して、省エネルギーにご協力をお願いいたします。 コールサイン（下り4音）
10	チャイム（約32秒）	ウェストミンスターの鐘

※「防犯警報音」は社団法人 日本防犯設備協会 技術標準SES E0005【防犯警報音規格】に準拠しています。

●内蔵コールサイン音源

番号	コールサイン音源名	
1	上り4音（約5秒）	出荷時の設定コールサイン音源（書き換えできません）
2	下り4音（約5秒）	
3	1音（約2秒）	書き換え可能な内蔵コールサイン音源
4	下り2音（約3秒）	
5	上り2音（約2秒）	
6	5音2回（約2秒） （地震放送メッセージで使用している音源）	
7	4音1回（約2秒） （停電放送メッセージで使用している音源）	
8	4音2回（約2秒） （ガス漏れメッセージで使用している音源）	

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、本製品の補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

53ページの表にしたがってご確認のあと、なお異常のあるときは、ただちに販売店または保守契約店へご連絡ください。

- 保証期間中は
保証書の規定にしたがって、出張修理をさせていただきます。
- 保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。
- 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客さまのご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

製品名	ラック形非常用放送設備
品番	WL-8000, WL-8500
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

■当社製品のお買物・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

フリーダイヤル

パナハ ヨイワ

☎0120-878-410 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

パナソニック株式会社および関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報やご相談内容をご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話をさせていただくための、ナンバーディスプレイを採用している場合があります。当社は、お客様の個人情報を、適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせはご相談された窓口にご連絡ください。

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WL-8000, WL-8500
	販売店名	電話（	）	—		

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号

3TR004526DAA
ASe0107-3010